

講義コード	U910100101	科目ナンバリング	U910100101
講義名	教職概論A (教職課程)		
英文科目名	Outlines for the Teaching Profession		
担当者名	山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西2-401		

授業概要

学校教員の仕事と生活に関して全般的な基本的認識を形成し、かつ教職をめぐる歴史的・法制的な基礎的認識も併せて獲得することを目的とする。このような基本的・基礎的認識の獲得を通して、教職への意欲と今後の学習計画の見通しが高まり、明確となることも目的とする。

到達目標

1. 教職の意義及び教員の役割について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)について学び、今後の課題を自覚できるようになる。
3. 教職課程履修について、自分の適性と進路選択と結び付けて考えることができようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、教職をめぐる今日的課題と社会的意義
第2回	教員の構成と社会的地位
第3回	教員の文化と教職の特性
第4回	日本の教員養成制度(歴史と現状)
第5回	教員の専門性・専門職性
第6回	今日の教育課題と教員の役割(1:学習指導)
第7回	今日の教育課題と教員の役割(2:生徒指導)
第8回	教員をめぐる政策的動向と「チーム学校運営への対応」
第9回	教職生活と課題(1:初任期の課題)
第10回	教職生活と課題(2:中堅期の課題)
第11回	教職生活と課題(3:管理職指導職期の課題)
第12回	教職生活の課題(4:ワークライフバランスと健康)
第13回	教員の権利と義務
第14回	授業のまとめ
第15回	授業の到達度確認

授業方法

講義形態を中心とするが、毎回、授業の最後に、リフレクション・カードの作成と提出を課し、それを通して教員と受講生、受講生相互のコミュニケーションを図る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の授業を受けるにあたって、指定された教科書の該当ページ箇所を必ず事前に読了し、不明な点をまとめておき、問題意識をもって、授業に臨むこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの作成・提出を義務付ける。内容の論理性・説得性、その根拠となる資料等の正確性を評価する。また、授業への参加度と受講態度を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのリフレクション・カードの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

新・教職入門(改訂版),山崎準二・矢野博之編,学文社,改訂,2020,9784762024184

教科書コメント

毎回の授業に必ず持参し受講すること。

参考文献コメント

特に指定はしないが、毎回の授業時に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910100102	科目ナンバリング	U910100102
講義名	教職概論B (教職課程)		
英文科目名	Outlines for the Teaching Profession		
担当者名	山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 中央-301		

授業概要

学校教員の仕事と生活に関して全般的な基本的認識を形成し、かつ教職をめぐる歴史的・法制的な基礎的認識も併せて獲得することを目的とする。このような基本的・基礎的認識の獲得を通して、教職への意欲と今後の学習計画の見通しが高まり、明確となることも目的とする。

到達目標

1. 教職の意義及び教員の役割について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)について学び、今後の課題を自覚できるようになる。
3. 教職課程履修について、自分の適性と進路選択と結び付けて考えることができようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、教職をめぐる今日的課題と社会的意義
第2回	教員の構成と社会的地位
第3回	教員の文化と教職の特性
第4回	日本の教員養成制度(歴史と現状)
第5回	教員の専門性・専門職性
第6回	今日の教育課題と教員の役割(1:学習指導)
第7回	今日の教育課題と教員の役割(2:生徒指導)
第8回	教員をめぐる政策的動向と「チーム学校運営への対応」
第9回	教職生活と課題(1:初任期の課題)
第10回	教職生活と課題(2:中堅期の課題)
第11回	教職生活と課題(3:管理職指導職期の課題)
第12回	教職生活の課題(4:ワークライフバランスと健康)
第13回	教員の権利と義務
第14回	授業のまとめ
第15回	授業の到達度確認

授業方法

講義形態を中心とするが、毎回、授業の最後に、リフレクション・カードの作成と提出を課し、それを通して教員と受講生、受講生相互のコミュニケーションを図る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の授業を受けるにあたって、指定された教科書の該当ページ箇所を必ず事前に読了し、不明な点をまとめておき、問題意識をもって、授業に臨むこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの作成・提出を義務付ける。内容の論理性・説得性、その根拠となる資料等の正確性を評価する。また、授業への参加度と受講態度を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのリフレクション・カードの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

新・教職入門(改訂版),山崎準二・矢野博之編,学文社,改訂,2020,9784762024184

教科書コメント

毎回の授業に必ず持参し受講すること。

参考文献コメント

特に指定はしないが、毎回の授業時に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910101101	科目ナンバリング	U910101101
講義名	教育基礎A（教職課程）		
副題	地球時代の教育課題――その歴史的・国際比較的展開――		
英文科目名	Basic Lectures of Education		
担当者名	宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央-301		

授業概要

本授業では、教育の理念・歴史・思想を思考することを通して、教育の基礎理論を理解することを目標としている。地球時代における教育・子ども・学校は、いかなる関係・動態として把握する必要があるのだろうか。このことを、近代の欧米・日本の教育の展開と現代の教育の課題を通して、ともに学習・研究することにした。

到達目標

- ①近代・現代の教育とその課題を理解する。
- ②近代・現代の子ども・人間とその課題を理解する。
- ③近代・現代の学校・公教育とその課題を理解する。
- ④①から③までを通して、開かれた教職の専門性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	啓く
第2回	地球時代とその教育――教育の本質と目的
第3回	近代ヨーロッパの教育①――フランス革命と公教育(ルソー、コンドルセなど)
第4回	近代ヨーロッパの教育②――国際新教育運動と子どもの発達(ワロンなど)
第5回	近代日本の教育①――大正自由教育と子どもの権利
第6回	近代日本の教育②――児童の村小学校、生活綴方、芸術教育
第7回	戦後改革期の教育――日本国憲法・教育基本法法制の成立
第8回	戦後史の中の教育――日本国憲法・教育基本法の動態
第9回	地球時代の教育原理①――人権と子どもの権利条約
第10回	地球時代の教育原理②――地域と教育の公共性
第11回	地球時代の教育計画①――ユネスコと平和教育
第12回	地球時代の教育計画②――公害学習と環境教育
第13回	地球時代の教育計画③――未来世代の権利と未完のプロジェクト
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業方法

授業のすすめ方は教員の講義を基本とするが、その内容については、学生の興味・関心もとりいれていく。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。(約1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	1回
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	2回
小テスト	20 %	1回
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	+ α%	12回

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

現代の教師と教育実践,宮盛邦友,学文社,第2,2019

戦後史の中の教育基本法,宮盛邦友,八月書館,2017

地球時代の教育原理,下地秀樹・水崎富美・太田明・堀尾輝久編,三恵社,2016

参考文献

子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014

地球時代の教養と学力,堀尾輝久,かもがわ出版,2005

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910101102	科目ナンバリング	U910101102
講義名	教育基礎B（教職課程）		
副題	地球時代の教育課題――その歴史的・国際比較的展開――		
英文科目名	Basic Lectures of Education		
担当者名	宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 中央-301		

授業概要

本授業では、教育の理念・歴史・思想を思考することを通して、教育の基礎理論を理解することを目標としている。地球時代における教育・子ども・学校は、いかなる関係・動態として把握する必要があるのだろうか。このことを、近代の欧米・日本の教育の展開と現代の教育の課題を通して、ともに学習・研究することにした。

到達目標

- ①近代・現代の教育とその課題を理解する。
- ②近代・現代の子ども・人間とその課題を理解する。
- ③近代・現代の学校・公教育とその課題を理解する。
- ④①から③までを通して、開かれた教職の専門性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	啓く
第2回	地球時代とその教育――教育の本質と目的
第3回	近代ヨーロッパの教育①――フランス革命と公教育(ルソー、コンドルセなど)
第4回	近代ヨーロッパの教育②――国際新教育運動と子どもの発達(ワロンなど)
第5回	近代日本の教育①――大正自由教育と子どもの権利
第6回	近代日本の教育②――児童の村小学校、生活綴方、芸術教育
第7回	戦後改革期の教育――日本国憲法・教育基本法法制の成立
第8回	戦後史の中の教育――日本国憲法・教育基本法の動態
第9回	地球時代の教育原理①――人権と子どもの権利条約
第10回	地球時代の教育原理②――地域と教育の公共性
第11回	地球時代の教育計画①――ユネスコと平和教育
第12回	地球時代の教育計画②――公害学習と環境教育
第13回	地球時代の教育計画③――未来世代の権利と未完のプロジェクト
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業方法

授業のすすめ方は教員の講義を基本とするが、その内容については、学生の興味・関心もとりいれていく。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。(約1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	1回
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	2回
小テスト	20 %	1回
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	+ α%	12回

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

現代の教師と教育実践,宮盛邦友,学文社,第2,2019

戦後史の中の教育基本法,宮盛邦友,八月書館,2017

地球時代の教育原理,下地秀樹・水崎富美・太田明・堀尾輝久編,三恵社,2016

参考文献

子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014

地球時代の教養と学力,堀尾輝久,かもがわ出版,2005

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910102101	科目ナンバリング	U910102101
講義名	教育心理学A（教職課程）		
副題	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
英文科目名	Educational Psychology		
担当者名	大家 まゆみ		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 土曜日 1時限 中央-403		

授業概要

子どもの発達や学習、動機づけなどの教育に関わる心理学的なテーマについて学ぶ。学校内外の児童・生徒の成長を理解するために必要な教育心理学の基礎分野－発達、教授・学習、人格、社会性、測定・評価、特別支援、思考・認知、臨床－を概観することによって、現代の教育現場における諸問題についても考える。また、現代社会の中で生じている教育心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。

到達目標

- ・発達と教育に求められる心理学の基礎的知識を身につける。
- ・実際に学校内外の教育現場で生ずる様々な心理的諸問題を概観する。
- ・特別支援教育のための基本的な障害児心理の知識を実践的に学ぶ。
- ・子どもの心の発達についての教育心理学分野の様々な概念についての知識を深め、学校教育における教師の役割を問い直す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	乳幼児期の発達
第3回	児童期・青年期の発達
第4回	認知発達
第5回	知能の歴史とアセスメント
第6回	人格の発達
第7回	社会性と自我の発達
第8回	記憶と学習
第9回	知識獲得と誤概念
第10回	動機づけの発達
第11回	現代の学校における諸問題(1)不登校
第12回	学級集団づくりと仲間関係
第13回	現代の学校における諸問題(2)いじめ
第14回	教師のリーダーシップと同僚性
第15回	振り返りとまとめ

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業後に復習しておいて下さい(目安とする時間:60分)。

- 1 テキストを参照し、全体のスケジュールを把握しておくこと。
- 2 乳幼児期の発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 3 児童期の発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 4 認知発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 5 知能の歴史とアセスメントについて、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 6 人格の発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 7 社会性と自我の発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 8 記憶と学習について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 9 記憶と学習について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 10 知識獲得と誤概念について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 11 動機づけの発達について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 12 現代の学校における諸問題(1)不登校について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 13 現代の学校における諸問題(2)いじめについて、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 14 教師のリーダーシップと同僚性について、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。
- 15 授業で扱ったテーマについて、テキストの当該箇所とプリントを復習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・子どもの認知発達について理解できているか
- ・子どもの社会性の発達について理解できているか
- ・現代の学校における諸問題を考察できるか
- ・青年期の教育と発達について理解できているか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントシートを利用してフィードバックを行う。

教科書

よくわかる教育心理学:やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ,中澤 潤(編),ミネルヴァ書房,2008

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910102102	科目ナンバリング	U910102102
講義名	教育心理学B（教職課程）		
英文科目名	Educational Psychology		
担当者名	篠ヶ谷 圭太		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 北1-201		

授業概要

人は親として、上司として、教師として、必ず人を教育する立場となる。それと同時に、人は生涯にわたって学び続ける学習者でもある。これまで教育心理学では、我々人間が、身体、言語、認知、社会性といった領域の発達について、また、記憶や学習といった知的活動に関して、様々な理論が提唱され、実証的な検討がなされてきた。この授業では、幼児、児童及び生徒の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけるとともに、各発達段階における心理的特性を踏まえながら学習指導を行うための考え方や姿勢を身につけることを目指す。

到達目標

1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を説明できる。2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を説明できる。3) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を説明できる。4) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて説明できる。5) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導を考えることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	教育心理学とは
第2回	身体及び認知能力の発達
第3回	言語能力の発達過程
第4回	人格、社会性、道徳性の発達過程
第5回	記憶のメカニズムと学習方略
第6回	学習方略の指導
第7回	動機づけ理論とその応用(1)
第8回	動機づけ理論とその応用(2)
第9回	学習理論とその応用(1)
第10回	学習理論とその応用(2)
第11回	協同的な学習の指導
第12回	個に応じた指導
第13回	学習評価
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業方法

講義と小グループでの討論

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内容をふり返り、教育実践や日常生活にどのように生かせそうか考えるとともに、テキストのうち次回の授業で扱う内容に該当する部分を読み、分からない点を把握しておくこと(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

心理学の専門用語を覚えているだけでなく、その内容を自分でも説明できるか、理論や現象にあてはまる事例を挙げられるか、実際の教育実践に生かす手立てが考えられるかを重点的に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生が提出したコメントペーパーの内容について、次回の授業において補足説明を行う。

参考文献

『教育心理学』:Next教科書シリーズ ,和田万紀,弘文堂
『教育心理学』,安藤寿康・鹿毛雅治,慶應義塾大学出版会

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910102103	科目ナンバリング	U910102103
講義名	教育心理学C（教職課程）		
英文科目名	Educational Psychology		
担当者名	小野田 亮介		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央-402		

授業概要

教育心理学では、「学ぶこと」や「教えること」のメカニズムについて心理学的な観点から解明し、教育現場での支援方法に還元することを目指す。この講義では、教育心理学の基礎的知識を身につけ、心理学の知見に基づいて教育の展開可能性を考えられるようになることを目指す。

到達目標

教育心理学の基礎的知識を習得し、学習・教育過程について理論的に分析、説明することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	教育心理学とは
第2回	認知の発達
第3回	言語の発達
第4回	人格と社会性の発達
第5回	障がいのある生徒の心身の発達および学習の過程
第6回	記憶のメカニズム
第7回	知識と理解
第8回	問題解決
第9回	学習における認知バイアス
第10回	動機づけ(1)自己決定理論と自己効力感の理論
第11回	動機づけ(2)原因帰属と達成目標理論
第12回	学級集団と教師の関係
第13回	授業のデザインと評価
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業方法

基本的に講義形式。
授業後にリアクション・ペーパーで感想、質問を求める。また、これらの活動はWEB上で行う可能性もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には、あらかじめ授業内容について調べ、自分なりの考えをもって授業に臨むこと(1～2時間)。授業後には、配付資料やメモを読み返、疑問点を解決しておくこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験では、心理学的な知見を具体的な教育上の課題や問題に当てはめて思考できるかどうかを判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクション・ペーパーの内容をふまえ、回答や授業内容の変更を行う。

教科書コメント

教科書については、授業内で適宜紹介する。

その他

毎回の講義に出席するのはもちろんのこと、講義内容について積極的に解釈・理解しようとする態度を求める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910103101	科目ナンバリング	U910103101
講義名	教育制度A（教職課程）		
英文科目名	Educational System		
担当者名	斉藤 利彦		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 中央-301		

授業概要

今日の教育状況を理解するにあたって、制度的アプローチはきわめて重要である。本科目は、日本の教育の特質を、制度を規定する各種法規と歴史の検討を通して考察していく。なお、『教育六法』を必ず用意すること。

到達目標

本科目は、教育の基礎的理解に関する教職課程科目である。
教育制度の歴史と現状を、法的根拠に基づき理解していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	戦前の教育制度の特質
第2回	戦前の学校制度の検討
第3回	「試験」制度からみた戦前の学校体系
第4回	憲法の教育条項と「権利としての教育」
第5回	教育基本法と教育の機会均等原則
第6回	教育基本法と生涯学習社会
第7回	学校の設置・運営と教育制度(初等教育)
第8回	学校の設置・運営と教育制度(中等教育)
第9回	学校と地域の連携および学校安全への対応(初等教育)
第10回	学校と地域の連携および学校安全への対応(中等教育)
第11回	児童・生徒をめぐる教育制度(生徒懲戒)
第12回	児童・生徒をめぐる教育制度(出席停止)
第13回	国際条約と教育制度(女子差別撤廃条約)
第14回	国際条約と教育制度(子どもの権利条約)
第15回	理解度の確認

授業方法

講義を主とするが、具体的な素材を取り上げつつ、班別の討論も交えて学習を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配付する資料と参考図書を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):80% 平常点:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義の中で、あるいは個別にフィードバックする。

教科書

教育六法,三省堂,2020年版

近現代教育史,斉藤利彦・佐藤学,学文社,2016

参考文献

試験と競争の学校史,斉藤利彦,講談社,学術文庫,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910103102	科目ナンバリング	U910103102
講義名	教育制度B（教職課程）		
英文科目名	Educational System		
担当者名	斉藤 利彦		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西5-303		

授業概要

今日の教育状況を理解するにあたって、制度的アプローチはきわめて重要である。本科目は、日本の教育の特質を、制度を規定する各種法規と歴史の検討を通して考察していく。なお、『教育六法』を必ず用意すること。

到達目標

本科目は、教育の基礎的理解に関する教職課程科目である。教育制度の歴史と現状を、法的根拠に基づき理解していく。

授業内容

実施回	内容
第1回	戦前の教育制度の特質
第2回	戦前の学校制度の検討
第3回	「試験」制度からみた戦前の学校体系
第4回	憲法の教育条項と「権利としての教育」
第5回	教育基本法と教育の機会均等原則
第6回	教育基本法と生涯学習社会
第7回	学校の設置・運営と教育制度(初等教育)
第8回	学校の設置・運営と教育制度(中等教育)
第9回	学校と地域の連携および学校安全への対応(初等教育)
第10回	学校と地域の連携および学校安全への対応(中等教育)
第11回	児童・生徒をめぐる教育制度(生徒懲戒)
第12回	児童・生徒をめぐる教育制度(出席停止)
第13回	国際条約と教育制度(女子差別撤廃条約)
第14回	国際条約と教育制度(子どもの権利条約)
第15回	理解度の確認

授業方法

講義を主とするが、具体的な素材を取り上げつつ、班別の討論も交えて学習を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配付する資料と参考図書を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第2学期(学年末試験):80% 平常点:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義の中で、あるいは個別にフィードバックする。

教科書

教育六法,三省堂,2020年版

近現代教育史,斉藤利彦・佐藤学,学文社,2016

参考文献

試験と競争の学校史,斉藤利彦,講談社,学術文庫,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910104101	科目ナンバリング	U910104101
講義名	教育課程論A（教職課程）		
英文科目名	Curriculum theory		
担当者名	山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 中央-302		

授業概要

初等中等教育段階を見通した学校における教育課程に関する基礎的理論と実際について講義する。1. 初等中等教育学校の教育課程に関する基礎理論と基本構造についての知識・理解を深める。2. 初等中等教育学校の教育課程を開発・改善・編成していくための基礎的力量的獲得を図る。3. 初等中等教育学校の教育課程を歴史的・比較教育的・原理論的に立ち返って考えていく態度を育成する。

到達目標

1. 初等中等教育学校の教育課程に関する基礎理論と基本構造について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。2. 初等中等教育学校の教育課程を開発・改善・編成(カリキュラム・マネジメント)していくための基礎的力量的獲得し、今後の課題について自覚できるようになる。3. 初等中等教育学校の教育課程を歴史的・比較教育的・原理論的に立ち返って理解し、今後の教育課程編成を進めていく意欲的態を持つことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、教育活動の基本構造と教育課程
第2回	教育課程の概念(ヒドゥン・カリキュラム問題を含む)
第3回	教育課程の構造(学習指導要領の構造問題を含む)
第4回	教育課程の法と行政(教科書の検定・採択・使用問題を含む)
第5回	戦後日本の学習指導要領の変遷(1:戦後新教育、Jデューイ)
第6回	戦後日本の学習指導要領の変遷(2:「現代化」と教育、J.S.ブルーナー)
第7回	戦後日本の学習指導要領の変遷(3:「人間化」と教育、レリバンス)
第8回	戦後日本の学習指導要領の変遷(4:「脱・ゆとり」と教育、リテラシー)
第9回	戦後日本の学習指導要領の変遷(5:教育課程の新しい考え方、コンピテンシー)
第10回	学力問題と教育課程(1:日本の現状、PISA,TIMSS)
第11回	学力問題と教育課程(2:諸外国の現状、同上)
第12回	教育課程の経営と評価(中等教育段階におけるカリキュラム・マネジメント)
第13回	教育課程をめぐる諸問題(中等教育段階における教育課程編成上の課題)
第14回	授業のまとめ
第15回	授業の到達度確認

授業方法

講義形態を中心とするが、毎回、授業の最後に、リフレクション・カードの作成と提出を課し、それを通して教員と受講生、受講生相互のコミュニケーションを図る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の授業を受けるにあたって、指定された教科書の該当ページ箇所を必ず事前に読了し、不明な点をまとめておき、問題意識をもって、授業に臨むこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの作成・提出を義務付ける。内容の論理性・説得性、その根拠となる資料等の正確性を評価する。また、授業への参加度と受講態度を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのリフレクション・カードの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

教育課程(第二版):教師教育テキストシリーズ,山崎準二編,学文社,第二,2018,9784762027819

教科書コメント

毎回の授業に必ず持参し受講すること。

参考文献

学習指導要領

参考文献コメント

文部科学省『中学校及び高等学校の学習指導要領』及び同『(受講生各自が取得希望している教科の)解説書』

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910104102	科目ナンバリング	U910104102
講義名	教育課程論B（教職課程）		
英文科目名	Curriculum theory		
担当者名	山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西5-202		

授業概要

初等中等教育段階を見通した学校における教育課程に関する基礎的理論と実際について講義する。1. 初等中等教育学校の教育課程に関する基礎理論と基本構造についての知識・理解を深める。2. 初等中等教育学校の教育課程を開発・改善・編成していくための基礎的力量的獲得を図る。3. 初等中等教育学校の教育課程を歴史的・比較教育的・原理論的に立ち返って考えていく態度を育成する。

到達目標

1. 初等中等教育学校の教育課程に関する基礎理論と基本構造について理解し、自分の言葉で説明できるようになる。2. 初等中等教育学校の教育課程を開発・改善・編成(カリキュラム・マネジメント)していくための基礎的力量的獲得し、今後の課題について自覚できるようになる。3. 初等中等教育学校の教育課程を歴史的・比較教育的・原理論的に立ち返って理解し、今後の教育課程編成を進めていく意欲的態を持つことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、教育活動の基本構造と教育課程
第2回	教育課程の概念(ヒドゥン・カリキュラム問題を含む)
第3回	教育課程の構造(学習指導要領の構造問題を含む)
第4回	教育課程の法と行政(教科書の検定・採択・使用問題を含む)
第5回	戦後日本の学習指導要領の変遷(1:戦後新教育、Jデューイ)
第6回	戦後日本の学習指導要領の変遷(2:「現代化」と教育、J.S.ブルーナー)
第7回	戦後日本の学習指導要領の変遷(3:「人間化」と教育、レリバンス)
第8回	戦後日本の学習指導要領の変遷(4:「脱・ゆとり」と教育、リテラシー)
第9回	戦後日本の学習指導要領の変遷(5:教育課程の新しい考え方、コンピテンシー)
第10回	学力問題と教育課程(1:日本の現状、PISA,TIMSS)
第11回	学力問題と教育課程(2:諸外国の現状、同上)
第12回	教育課程の経営と評価(中等教育段階におけるカリキュラム・マネジメント)
第13回	教育課程をめぐる諸問題(中等教育段階における教育課程編成上の課題)
第14回	授業のまとめ
第15回	授業の到達度確認

授業方法

講義形態を中心とするが、毎回、授業の最後に、リフレクション・カードの作成と提出を課し、それを通して教員と受講生、受講生相互のコミュニケーションを図る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の授業を受けるにあたって、指定された教科書の該当ページ箇所を必ず事前に読了し、不明な点をまとめておき、問題意識をもって、授業に臨むこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの作成・提出を義務付ける。内容の論理性・説得性、その根拠となる資料等の正確性を評価する。また、授業への参加度と受講態度を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのリフレクション・カードの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

教育課程(第二版):教師教育テキストシリーズ,山崎準二編,学文社,第二,2018,9784762027819

教科書コメント

毎回の授業に必ず持参し受講すること。

参考文献

学習指導要領

参考文献コメント

文部科学省『中学校及び高等学校の学習指導要領』及び同『(受講生各自が取得希望している教科の)解説書』

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910105101	科目ナンバリング	U910105101
講義名	特別支援教育論(中・高)A(教職課程)		
英文科目名	Special Needs Education		
担当者名	黒住 早紀子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2-503		

授業概要

本授業では、特別支援教育の理念や体制、さまざまな障害の特徴と必要な支援、障害以外の特別なニーズとその支援等について概説する。

到達目標

発達障害を含むさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育的ニーズを理解し、適切な支援を行うために必要な知識や方法を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、イントロダクション(特別支援教育の理念)
第2回	特別支援教育の制度、歴史と現状
第3回	特別支援教育の対象となる幼児、児童及び生徒の概要と支援の実際
第4回	知的障害の特徴と支援
第5回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援
第6回	注意欠如・多動性障害の特徴と支援
第7回	学習障害の特徴と支援
第8回	視覚障害、聴覚障害の特徴と支援
第9回	肢体不自由、病弱の特徴と支援
第10回	障害以外の特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の特徴と支援
第11回	特別支援教育の教育課程
第12回	個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用
第13回	特別支援教育の体制構築
第14回	特別支援教育の展望と課題、まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

基本的には講義形式を中心として進めますが、授業内容に応じて、グループワークやディスカッション等も取り入れます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配付した資料の必要箇所をすべて読み返し、疑問点をまとめておくこと(1時間～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト及びレポートの解説は授業内で行ないません。

また、毎授業時にコメントペーパーを配付し、次回授業時にはそのフィードバックをする時間を設けます。コメントペーパーは、その内容により、成績評価に加味する場合があります。

参考文献

特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践,川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己,北大路書房,2016,9784762829499

教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト—気付き、工夫して、つなげる。、小林倫代編著,学研,2018,9784058008904

教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校・高等学校編:教室で行う特別支援教育,月森久江,図書文化,2012,9784810026139

長所活用型指導で子どもが変わる 思春期・青年期用—KABC-IIを活用した社会生活の支援—:長所活用型指導で子どもが

変わる,藤田和弘監修,図書文化,2016,9784810056617

参考文献コメント

授業時に適宜紹介します。

履修上の注意

初回授業時に履修上の注意点等を説明するため、必ず出席すること。

その他

履修者の積極的、主体的な参加を期待します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910105102	科目ナンバリング	U910105102
講義名	特別支援教育論(中・高)B(教職課程)		
英文科目名	Special Needs Education		
担当者名	伊藤 良子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央-301		

授業概要

特別支援教育の理念や体制、個別の障害の特徴と必要な支援、障害以外の教育的ニーズとその支援等について概説する。

到達目標

発達障害など様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特徴と教育的ニーズを理解し、適切な支援を行うために必要な知識と方法を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	特別支援教育の理念と制度
第2回	特別支援教育の歴史と現状
第3回	支援方法の実際と課題
第4回	特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の種類
第5回	知的障害の特徴と支援
第6回	自閉症スペクトラム障害の特徴と支援
第7回	学習障害の特徴と支援
第8回	注意欠如多動性障害の特徴と支援
第9回	視覚障害・聴覚障害の特徴と支援
第10回	肢体不自由・病弱の特徴と支援
第11回	障害以外の特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の特徴と支援
第12回	特別支援教育の教育課程
第13回	教育支援計画の作成
第14回	特別支援教育の体制構築
第15回	まとめ:特別支援教育の展望と課題

授業方法

講義、グループワーク等

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業前に予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくこと(1～2時間)。
- ・授業中に配布した資料の必要部分をすべて読み返し、疑問点をまとめておくこと(1時間)。
- ・授業で紹介した参考書等を読み、疑問点をまとめておくこと(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	毎回のリフレクションペーパーも評価の対象とする。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リフレクションペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

はじめての特別支援教育 改訂版, 柘植雅義他, 有斐閣, 改訂, 2014, 9784641220386

参考文献コメント

参考文献等は授業時に指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910321101	科目ナンバリング	U910321101
講義名	道徳教育指導論A（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Moral Education		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 中央-404		

授業概要

道徳教育に関する歴史や学習指導要領の内容等の理解し、内容項目に即した教材研究及び授業開発体験を通して、「道徳教育」及び「特別の教科 道徳」の基礎・基本を習得する。

到達目標

「道徳教育」及び「特別の教科 道徳」を担当するための知識や教材研究の方法等を学び、授業実践のための基本的資質・能力を修得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション「道徳教育」と「特別の教科教育」
第2回	道徳教育と学習指導要領
第3回	道徳教育の歴史
第4回	道徳教育と人権教育等
第5回	道徳教育とアクティブ・ラーニング
第6回	道徳教育における映像資料の活用
第7回	道徳教育における情報機器と情報モラル
第8回	教材研究と授業開発①自分自身に関すること
第9回	教材研究と授業開発②人との関わりに関すること
第10回	教材研究と授業開発③集団や社会との関わりに関すること
第11回	教材研究と授業開発④生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
第12回	模擬授業案の検討①考え議論する道徳の視点から
第13回	模擬授業案の検討②人権教育の視点から
第14回	模擬授業案の検討③規範教育の視点から
第15回	中学校道徳教育の可能性

授業方法

前半は中学校における道徳教育の歴史、「特別の教科 道徳」の内容等に関する講義が中心となる。後半は、受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれている。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示す。受講者各自が、自ら計画的に教材研究、指導案作成を進めることが、期待される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常点では課題に対する主体性あるいは協働性を重視する。レポートにおいては、道徳教育の目的や課題をふまえた、教材研究や授業開発の成果及び考察を重視する。

教科書

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』,文部科学省,教育出版

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910321102	科目ナンバリング	U910321102
講義名	道徳教育指導論B（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Moral Education		
担当者名	梅野 正信		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央-405		

授業概要

道徳教育に関する歴史や学習指導要領の内容等の理解し、内容項目に即した教材研究及び授業開発体験を通して、「道徳教育」及び「特別の教科 道徳」の基礎・基本を習得する。

到達目標

「道徳教育」及び「特別の教科 道徳」を担当するための知識や教材研究の方法等を学び、授業実践のための基本的資質・能力を修得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 「道徳教育」と「特別の教科教育」
第2回	道徳教育と学習指導要領
第3回	道徳教育の歴史
第4回	道徳教育と人権教育等
第5回	道徳教育とアクティブ・ラーニング
第6回	道徳教育における映像資料の活用
第7回	道徳教育における情報機器と情報モラル
第8回	教材研究と授業開発①自分自身に関すること
第9回	教材研究と授業開発②人との関わりに関すること
第10回	教材研究と授業開発③集団や社会との関わりに関すること
第11回	教材研究と授業開発④生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
第12回	模擬授業案の検討①考え議論する道徳の視点から
第13回	模擬授業案の検討②人権教育の視点から
第14回	模擬授業案の検討③規範教育の視点から
第15回	中学校道徳教育の可能性

授業方法

前半は中学校における道徳教育の歴史、「特別の教科 道徳」の内容等に関する講義が中心となる。後半は、受講者による教材研究・授業開発に関する活動が含まれている。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の授業で課題を示す。受講者各自が、自ら計画的に教材研究、指導案作成を進めることが、期待される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常点では課題に対する主体性あるいは協働性を重視する。レポートにおいては、道徳教育の目的や課題をふまえた、教材研究や授業開発の成果及び考察を重視する。

教科書

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』,文部科学省,教育出版

参考文献コメント

学習指導要領以外の必要な資料はその都度配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910321103	科目ナンバリング	U910321103
講義名	道徳教育指導論C（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Moral Education		
担当者名	柴崎 直人		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 土曜日 1時限 西1-101		

授業概要

道徳は人格の全体に関連し、知情意の総体に関わりを持つが故に、家庭・社会・学校それぞれの教育の根幹を成すものである。本講義では「よりよく生きる」ための知識・技法・態度を、実際の教育現場において生徒・児童にいかに関与させるべきかを検討したい。その手掛かりとして学習指導要領と道徳教育の歴史、講師がこれまでに実践したマナー・エチケット・礼儀作法教育の事例などを用いる。

到達目標

- (1) 道徳の基本理念について理解する
- (2) 道徳教育の歴史を学び、指導上の問題を発見して考えることができる。
- (3) 新学習指導要領で重視されている道徳教育の内容を理解し、問題点と解決策を示すことができる。
- (4) 道徳の時間の授業を構想し、指導計画及び指導案の立案・実践ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学習指導要領における「道徳」1 目標
第3回	学習指導要領における「道徳」2 内容
第4回	道徳の時間設置の流れ1 戦後昭和
第5回	道徳の時間設置の流れ2 平成
第6回	道徳教育の歴史1 明治
第7回	道徳教育の歴史2 大正～昭和
第8回	道徳教育の内容と方法
第9回	道徳教育における学習指導案の作成
第10回	模擬授業1 導入について
第11回	模擬授業2 展開について
第12回	模擬授業3 学習活動について
第13回	模擬授業4 指導上の留意点について
第14回	模擬授業5 まとめと評価の観点について
第15回	道徳教育の可能性と今後の課題

授業方法

講義形式、グループワーク、模擬授業など多様な形式で授業を進める予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各講義に関するテキストの該当箇所必ず目を通しておき、意欲と関心を持って授業にのぞんでほしい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点については、グループでの活動に積極的に参加し、有意義な討議を構築する学習態度が評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークの課題やレポート等については、それらに付随する学習活動等も含めて授業内において口頭で総合的にフィードバックをおこなう。

教科書

自ら学ぶ道徳教育〔第2版〕,押谷由夫 編著,保育出版社,2016,978-4-938795-96-2

参考文献

- 礼儀・マナー教育概論,柴崎直人,培風館,2013,978-4563052379
中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編,文部科学省,教育出版,2018

その他

- 本講義においては始業時より30分以内を遅刻とし、それを超えた場合は欠席として扱う。
- 遅刻とは、始業時刻に着席していなかった場合をさす。
出席確認は始業時刻に開始するので、開始の時点での未着席は遅刻として扱う。
- 遅刻に際しては、講師が特に指示しない限りはA4版のレポート用紙等に日付・入室時刻・班・氏名・遅刻理由を記述し(書式自由)、当該講義の終了時に提出すること。提出なき場合は始業後30分以内に入室していたとしても欠席扱いとする。講師が特に指示しない限りは、口頭及び後日になってからの申し出は、原則としてこれを受理しない。
- 交通機関等の遅延による遅刻は、各機関が発行する遅延証明書の裏面に入室時刻・班・氏名を記述して提出するものとする。
- インフルエンザ及び忌引き等、やむを得ない欠席については、各証明書等もしくはそのコピー、画像等の提示がある場合に限り欠席として扱わない。このような場合には証明書等の提示は後日でよく、AIMS等による当日の連絡は不要である。なお緊急連絡先はshiba@gifu-u.ac.jpとする。
- これら出欠席の管理にあたっては各人が責任をもって記録・把握を行い、他に依存することのないよう強く留意されたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910331101	科目ナンバリング	U910331101
講義名	特別活動指導論A（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Extra Curricular Activity		
担当者名	長沼 豊		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西5-301		

授業概要

この科目は、教科学習と並んで学校教育の重要な柱となっている「特別活動」の意義や課題などについて、さまざまな観点から検討を加える。特別活動は集団活動を基盤とした活動であり、生徒の主体的な参加と教員の適切な指導・助言によって教育効果を発揮するものである。そこで「集団のあり方と教員のかかわり方」をキーワードにして考察を深めることにする。具体的には中学校・高等学校の学級活動、生徒会活動、学校行事の各領域の指導のあり方について考察する。特に学校行事については、生徒役・教員役に分かれて模擬遠足実習をおこない、体験的に学ぶ機会を提供する。

到達目標

中学校・高等学校の特別活動に関する理解を深め、教員の指導のあり方について言及できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	特別活動の意義と役割
第2回	特別活動における指導のあり方
第3回	学校行事(1)(行事の意義)
第4回	学校行事(2)(行事の企画)
第5回	学級活動・ホームルーム活動と学校生活
第6回	部活動と人間形成
第7回	学校行事(3)(行事の運営法)
第8回	生徒会活動と自治(1)生徒会活動の意義
第9回	生徒会活動と自治(2)民主的な手法
第10回	ワークショップ論
第11回	学校行事(4)(行事の実習)模擬遠足実習
第12回	学校行事(5)(ふりかえり)
第13回	特別活動の課題と展望
第14回	授業のまとめ
第15回	振り返り

授業計画コメント

模擬遠足実習(学外演習)を日曜日に1回おこなう(6月14日の予定)。ほぼ毎回グループ学習を行う。初回に出席しない者はグループ登録しない。

授業方法

講義、グループ討論、実習、アクティブラーニングなど多様な方法を用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

総合的に評価する。「模擬遠足実習」への参加は単位認定の最低条件となっている。参加・参画型授業のため、欠席が多い場合は単位認定しない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

最終の授業時に行う。

教科書

特別活動の理論と実践,長沼豊、柴崎直人、林幸克編著,電気書院,2018

教科書コメント

購入して持参すること。

各回の内容に該当する箇所を各自で読んでおき、授業最終回までには全て読み終えること。

参考文献

中学校学習指導要領解説 特別活動編,文部科学省,東山書房,2018

高等学校学習指導要領解説 特別活動編,文部科学省,東京書籍,2019

キーワードで拓く新しい特別活動,日本特別活動学会,東洋館出版社,三訂,2019

履修上の注意

1. 第1回目の授業に必ず出席のこと(班分けを行う)。
2. 本授業では環境への配慮から紙資料の配付を自粛する。授業資料は授業前にGポートから履修者にPDFファイルを配信する。履修者は各自でダウンロードし、授業には当該ファイルを閲覧できるスマートフォン、タブレット端末、ノートPC等を持参するか、印刷したものを持参すること。
3. 授業中にWEBサイトを見てもらうことがあるため、QRコードを読みとることが出来る情報端末(スマートフォン等)を持参すること。

その他

【実務経験のある教員による授業科目】

教諭経験のある担当教員が、実践に即した具体的な内容を解説するほか、学校現場で扱う対話型の授業を体験的・実践的に行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910331102	科目ナンバリング	U910331102
講義名	特別活動指導論B（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Extra Curricular Activity		
担当者名	久保田 福美		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西5-301		

授業概要

教科学習と並んで学校教育の重要な柱となっている「特別活動」の意義や内容、指導法などについて、理解する。特別活動は、集団活動を基盤とした活動であり、生徒の主体的な参加と教師の適切な指導・助言によって、教育効果を発揮するものである。そこで、「集団のあり方と教師のかかわり方」をキーワードにして考察を深めることにする。具体的には、学級活動、生徒会活動、学校行事の各領域の指導のあり方について考察する。特に、学校行事については、模擬遠足実習を行い、体験的に学ぶ機会を設定する。

到達目標

特別活動の意義や内容、指導方法などについて、模擬遠足実施計画案を作成し、実際に教師役・生徒役をやることを通して具体的に理解できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	特別活動の意義と役割、模擬遠足のグループ分け
第2回	特別活動における指導のあり方
第3回	学級活動、ホームルーム活動①(意義と内容と実際)
第4回	学級活動、ホームルーム活動②(年間指導計画と指導方法)
第5回	生徒会活動①(意義と内容と実際)
第6回	生徒会活動②(年間指導計画と指導方法)
第7回	部活動の目標と実際、課題
第8回	学校行事①(意義と内容)
第9回	学校行事②(行事の計画～模擬遠足をどうするか～)
第10回	学校行事③(模擬遠足の事前指導)
第11回	学校行事④(模擬遠足の実習)
第12回	学校行事⑤(模擬遠足のふりかえり)
第13回	奉仕活動と人間形成
第14回	全体のまとめと特別活動の課題
第15回	授業の総括

授業方法

講義、グループワーク、模擬遠足の実習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

「中学校学習指導要領解説特別活動編」や「特別活動概論」を読み込む(毎回)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席状況、ミニレポート、遠足実習の参加)授業への参加状況や遠足実習に加え、レポートを加味して総合的に評価する。「模擬遠足」参加は必修のこと。レポート:50%(課題に正対して論述し、自分の考えを述べているか。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業の振り返りをプリントにして次の授業で上階、活用していく。

教科書

特別活動の理論と実践,長沼豊、柴崎直人、林幸克,電気書院,第1,2018

参考文献

中学校学習指導要領解説特別活動編,文部科学省,東山書房,2018

高等学校学習指導要領解説特別活動編,文部科学省,海文堂出版,2010

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

「模擬遠足実習」(日程は未定)への参加は、単位認定の最低条件となっている。初回にグループ分けのための話し合いを行うので、必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910331103	科目ナンバリング	U910331103
講義名	特別活動指導論C（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods in Extra Curricular Activity		
担当者名	由井 一成		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-405		

授業概要

本授業では、中学校、高等学校の特別活動の内容および指導法について理解することを到達目標とする。テーマは「学校教育の専門家としてかかわる特別活動」である。生徒として過去に体験した特別活動と、将来に免許を持った学校教育の専門家の立場でかかわる特別活動の「かかわりかた」の違いを考え、またその体験を通じて、大学で修めるべき特別活動の内容を理解し学びを進める。

到達目標

- (1) 特別活動の基本理念について理解する
- (2) 特別活動の歴史を学び、指導上の問題を発見して考えることができる。
- (3) 新学習指導要領で重視されている特別の内容を理解し、問題点と解決策を示すことができる。
- (4) 特別活動の指導、とくに引率行事を構想し、指導計画及び指導案の立案・実践ができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	教育課程における特別活動の位置と目標について
第2回	特別活動の教育的意義とは
第3回	学級活動、ホームルーム活動1 内容と実際
第4回	学級活動、ホームルーム活動2 年間指導計画の作成と指導方法
第5回	生徒会活動とは1 生徒会活動の内容と実際
第6回	生徒会活動とは2 生徒会活動の指導方法
第7回	学校行事とは1 学校行事の内容と実際
第8回	学校行事とは2 学校行事の指導計画と指導方法
第9回	模擬行事実習1 指導計画の作成
第10回	模擬行事実習2 クラス活動の実際(実践的学習)
第11回	模擬行事実習3 グループ活動の実際(実践的学習)
第12回	模擬行事実習4 グループ活動の評価(実践的学習)
第13回	模擬行事実習の総括 教員として望ましいかかわり方とは
第14回	模擬行事実踏のふりかえり1 前半グループの報告
第15回	模擬行事実踏のふりかえり2 後半グループの報告

授業計画コメント

模擬遠足実習を日曜日に1回行う(11月15日の予定)。ほぼ毎回グループ学習を行う。初回に出席しない者はグループ登録しない。

授業方法

講義、グループ討論、実習、アクティブラーニングなど多様な方法を用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	25 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

ミニレポートを課す場合がある。それらを含めて総合的に評価する。「模擬遠足実習」への参加は単位認定の最低条件となっている。参加・参画型授業のため、欠席が多い場合は単位認定しない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ミニレポート等については授業内におけるそれらを元にした学習活動を含めて口頭などで総合的なフィードバックを行う。

教科書

特別活動の理論と実践,長沼豊、柴崎直人、林幸克編著,電気書院,2018,978-4485304150

教科書コメント

購入して持参すること。

参考文献

中学校学習指導要領解説特別活動編,文部科学省

高等学校学習指導要領解説特別活動編,文部科学省

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

初回にグループ分けのための作業を行う。必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910340101	科目ナンバリング	U910340101
講義名	教育方法・技術A（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methods and Exercises		
担当者名	佐藤 学		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西2-202		

授業概要

授業を創造する技法とその技術について、学習科学、教授学、授業実践の事例研究の三つのアプローチによって講述する。中学校、高校の授業の実践において有効となるよう、可能な限り、授業実践の実例をビデオ記録で提示し、その観察と批評によって具体的な技法とその実践的研究を講義において実施したい。併せて、ICT(情報コミュニケーション技術)を活用した授業の可能性についても実践的に例示する。

到達目標

中学校、高校の授業実践の技術、カリキュラムの基本概念、授業研究の方法について基礎的な理解を形成することを到達目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の世界。中学校、高校の教室における授業風景をビデオ記録で紹介し、授業実践というとなみが教師にとってどのような活動として展開されているのかについて解説する。
第2回	学びの世界。中学校、高校の教室における授業風景をビデオ記録で紹介し、教室において生徒はどう学んでいるのかについて解説し、授業が生徒にとってどのような経験として体験されているのかについて解説する。
第3回	授業の技法1(ポジショニング)。授業の技法として、教師の居方について授業記録のビデオや写真を示して講述する。教師の言葉と身体が開かれ、教師のふるまいが絶えず生徒と教材、生徒と生徒をつないでいることの重要性を提示する。
第4回	授業の技法2(聴く)。優れた教師は話すことよりも聴くことに専念している。授業の技法として、生徒のつぶやきや声にならないメッセージを細やかに聴くことの重要性について、実践事例を示しつつ講述する。
第5回	授業の技法3(つなぐ)。授業において教師は生徒と教材をつなぎ、生徒と生徒をつなぐ活動を展開している。〈つなぐ〉をキーワードにして授業の技法を示し、その技法の具体を実践事例のビデオ記録によって提示する。
第6回	授業の技法3(もどす)。生徒の学びを触発し跳躍させるための授業の技法を〈もどす〉をキーワードにして示す。授業において教師は〈テキストにもどす〉〈資料にもどす〉〈グループにもどす〉活動を有効に展開している。その実例と意義を講述する。
第7回	授業の技法4(学びのデザイン)。授業に先立って教師は生徒の学びの課題をデザインし、授業においてデザインを即興的に修正して、創造的でダイナミックな生徒の学びを実現している。その技法を〈デザイン〉をキーワードとして提示する。
第8回	授業の技法5(学びのリフレクション)。学びのデザインとリフレクションの往還作用によって授業実践は質の高いものへと発展する。学びのリフレクションは授業中の思考と授業後の思考の二つのステージで行われる。その具体を提示する。
第9回	ICTの活用。ICTの技術的発展は、授業と学びの様式のイノベーションを促進している。ICTの活用の方法を示し、テクノロジーが学びの変革にどう有効に機能するのか、その可能性について講述する。
第10回	協同的学びの組織1。中学校の授業実践の実例を提示し、協同的学びが有効に機能する要件と協同的学びを推進する教師の役割について講述する。
第11回	協同的学びの組織2。高校の授業実践の実例を提示し、協同的学びが有効に機能する要件と協同的学びを推進する教師の役割について講述する。
第12回	個への対応と協同の促進。授業実践において教師は、個への対応(テーラーリング)と協同の促進(オーケストレーション)を行うことによって、ダイナミックな学び合いを教室に実現している。その実践例を示し指導法の要点について解説する。
第13回	授業研究の方法1。教師の成長は職人性(クラフトマンシップ)と専門性(プロフェッショナルリズム)の二つの面において進行する。職人性は授業実践の高度の技法として洗練され、専門性は知識と理論によって発達する。その構造について講述する。
第14回	授業研究の方法2。教師が授業を実践的に研究する方法について講述する。教師が成長できる校内研修の条件についても検討したい。
第15回	理解度の確認。授業全体をとおして総括的な理解度を確認する。

授業方法

授業の方法と技術に関して、可能な限り実践事例を映像記録で提示して、実践的な理解を追求する。事例研究においては、グループ学習とミニレポートを多用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の前に前時までの授業内容について十分に理解しておくこと。事前に配布した資料については、必要な個所の事前学習を行って授業に参加すること。予習と復習の時間30分。

成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点30%、講義内容の理解を問う学期末試験70%で、評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表と報告については、その都度、フィードバックを行う。最終試験については、評価後、必要に応じてフィードバックを行う。

参考文献

教師花伝書,佐藤学

参考文献コメント

その都度、必要に応じて資料を配布する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910340102	科目ナンバリング	U910340102
講義名	教育方法・技術B（教職課程）		
副題	模擬授業で実践的指導力を育成する		
英文科目名	Teaching Methods and Exercises		
担当者名	下田 好行		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 中央-403		

授業概要

教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)は、今を生きる生徒を育成するために必要な教育の方法、指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。特に教材開発と授業方法のあり方について理解する。教育方法の基礎的理論と実践を理解している。実践的指導力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの授業を目指す。

到達目標

- ・本質主義と経験主義、PISA型リテラシーの学力観について理解することができる。それを踏まえて、学習指導要領の歴史的変遷について理解することができる。
- ・児童の内面理解、教材研究のあり方、授業における目標設定、評価方法について理解することができる。
- ・教科横断的な教材開発、総合的な学習の時間の教材を開発することができる。
- ・発問、指示、板書、ICT、について理解することができる。
- ・教育内容、教材、教具の違いを理解し、学習形態を工夫し、学習指導案を書くことができる。
- ・学習指導案を基に実際に授業し、自らの授業の振り返りを行うことができる。
- ・論理的思考と感性的思考を踏まえ、今を生きるために必要な資質・能力について、自分なりの意見を 持つことができる。
- ・メディアリテラシー、情報モラルを理解し、情報機器を活用した教材、授業作りを理解することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の目的と方法、講義計画、評価の規準について理解する。模擬授業とレポートの書き方について理解する。
第2回	内容か経験か。教育の二項対立と学習指導要領の変遷について理解する。
第3回	今を生きるために必要な資質・能力とは何か。PISA型学力と思考力・判断力・表現力、主体的・対話的で深い学びについて理解する。
第4回	教育内容と教材、教具の違いを理解する。発問、指示、板書のし方、評価方法について理解する。学習指導案の書き方を理解する。
第5回	構成的エンカウンター・グループを利用して、模擬授業のグループを作り、グループメンバーの内面理解を進める。合わせて児童の内面理解の方法と授業を創るうえでの目標設定のあり方について理解する。
第6回	学習指導要領と教科書の対応を理解し、単元計画の立て方を理解する。あわせて、教科横断的なカリキュラム・マネジメントのあり方を理解する。
第7回	教科横断的な教材、授業開発のあり方、総合的な学習の時間の教材、授業開発のあり方について理解する。学習意欲を喚起するために、学ぶ必要感と必然性を児童に感じさせる教材、授業開発のあり方について理解する。
第8回	調べ学習の方法について理解する。調べるテーマの絞り込み方、学校図書館の活用、著作権、情報モラルについて理解する。PCを使用して、新聞記事のデータベース検索を行い、メディアリテラシーについて理解する。
第9回	わかるということは何か。内面に響くとは何か。論理的認識と感性的認識の関係をシュタイナーの人智学思想を参考に考える。
第10回	授業における情報機器、データベース、ICTの活用のあり方について理解する。データベースを使用し教材を作成する。また、情報機器を利用した授業方法について理解する。
第11回	グループでの模擬授業、学生同士の意見交流、1回目(教材開発の視点から)
第12回	模擬授業、学生同士の意見交流、2回目(授業展開の視点から)
第13回	模擬授業、学生同士の意見交流、3回目(学習者の内面の見取りの視点から)
第14回	模擬授業の内容を受講者全体の前でプレゼンテーションを行う。
第15回	講義のまとめを行う。学生の自らの学びの振り返りを行う。

授業計画コメント

10回までは講義、11～15回まではアクティブ・ラーニングの時間、レポートは2つ、8回目と15回目に集める。

授業方法

- ・学校現場の状況、課題などがイメージできるような教育内容・方法を工夫する。
- ・実践的指導力を育成するために、教材を実際に開発し、模擬授業を行う。教科横断的な教材と授業の開発、主体的・対話的で深い学びに誘う授業を開発する練習を行う。
- ・模擬授業は、グループごとに同時進行で進める。受講生一人の模擬授業を行う時間を十分に確保し、学生参加型のアクティブ・ラーニングを行う。このことによって、教師としての実践的指導力を担保する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習としては、テキストであげた『中学校学習指導要領』を読み、第1のレポートの課題である「学習指導要領と教科書との対応関係」読み解く。また、第2の課題である「模擬授業における教材・指導案作成を行う。事後学習としては、自分が行った模擬授業の振り返りをまとめる。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	レポートは2つ、学習指導要領・教科書に関するものと模擬授業に関するものである。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	3分の1以上の欠席の場合は単位認定しない。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは2つある間レポートと模擬授業の振り返りレポートである2つである。これで50%の評価を行う。各回のコメントペーパーの記述、授業中の発言、学習に向かう姿勢、出席で50%の評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中にコメントペーパーを書かせ、意見を発表させ、受講生に共有する。重要なものは次に授業でとりあげる。第1のレポートの講評を授業中に行う。模擬授業のレポートの質を高めるため、模擬授業の内容を第14回目にプレゼンテーションさせる。

教科書

中学校学習指導要領,文部科学省,東山書房,2017

教科書コメント

講義においては、下田作成のレジュメ、資料を配布する。

参考文献

人間形成の論理,上田薫,黎明書房,1992

教科等横断的な教育課程編成の考え方・進め方,加藤幸次,黎明書房,2019

履修上の注意

講義の中でアクティブ・ラーニングを行う。ディスカッションや模擬授業、プレゼンテーションを行う講義であることを理解しておく。

その他

意欲的な学生の参加を希望する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910340103	科目ナンバリング	U910340103
講義名	教育方法・技術C（教職課程）		
副題	模擬授業で実践的指導力を育成する		
英文科目名	Teaching Methods and Exercises		
担当者名	下田 好行		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 中央-403		

授業概要

教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)は、今を生きる生徒を育成するために必要な教育の方法、指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。特に教材開発と授業方法のあり方について理解する。教育方法の基礎的理論と実践を理解している。実践的指導力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの授業を目指す。

到達目標

- ・本質主義と経験主義、PISA型リテラシーの学力観について理解することができる。それを踏まえて、学習指導要領の歴史的変遷について理解することができる。
- ・児童の内面理解、教材研究のあり方、授業における目標設定、評価方法について理解することができる。
- ・教科横断的な教材開発、総合的な学習の時間の教材を開発することができる。
- ・発問、指示、板書、ICT、について理解することができる。
- ・教育内容、教材、教具の違いを理解し、学習形態を工夫し、学習指導案を書くことができる。
- ・学習指導案を基に実際に授業し、自らの授業の振り返りを行うことができる。
- ・論理的思考と感性的思考を踏まえ、今を生きるために必要な資質・能力について、自分なりの意見を 持つことができる。
- ・メディアリテラシー、情報モラルを理解し、情報機器を活用した教材、授業作りを理解することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の目的と方法、講義計画、評価の規準について理解する。模擬授業とレポートの書き方について理解する。
第2回	内容か経験か。教育の二項対立と学習指導要領の変遷について理解する。
第3回	今を生きるために必要な資質・能力とは何か。PISA型学力と思考力・判断力・表現力、主体的・対話的で深い学びについて理解する。
第4回	教育内容と教材、教具の違いを理解する。発問、指示、板書のし方、評価方法について理解する。学習指導案の書き方を理解する。
第5回	構成的エンカウンター・グループを利用して、模擬授業のグループを作り、グループメンバーの内面理解を進める。合わせて児童の内面理解の方法と授業を創るうえでの目標設定のあり方について理解する。
第6回	学習指導要領と教科書の対応を理解し、単元計画の立て方を理解する。あわせて、教科横断的なカリキュラム・マネジメントのあり方を理解する。
第7回	教科横断的な教材、授業開発のあり方、総合的な学習の時間の教材、授業開発のあり方について理解する。学習意欲を喚起するために、学ぶ必要感と必然性を児童に感じさせる教材、授業開発のあり方について理解する。
第8回	調べ学習の方法について理解する。調べるテーマの絞り込み方、学校図書館の活用、著作権、情報モラルについて理解する。PCを使用して、新聞記事のデータベース検索を行い、メディアリテラシーについて理解する。
第9回	わかるということは何か。内面に響くとは何か。論理的認識と感性的認識の関係をシュタイナーの人智学思想を参考に考える。
第10回	授業における情報機器、データベース、ICTの活用のあり方について理解する。データベースを使用し教材を作成する。また、情報機器を利用した授業方法について理解する。
第11回	グループでの模擬授業、学生同士の意見交流、1回目(教材開発の視点から)
第12回	模擬授業、学生同士の意見交流、2回目(授業展開の視点から)
第13回	模擬授業、学生同士の意見交流、3回目(学習者の内面の見取りの視点から)
第14回	模擬授業の内容を受講者全体の前でプレゼンテーションを行う。
第15回	講義のまとめを行う。学生の自らの学びの振り返りを行う。

授業計画コメント

10回までは講義、11～15回まではアクティブ・ラーニングの時間、レポートは2つ、8回目と15回目に集める。

授業方法

- ・学校現場の状況、課題などがイメージできるような教育内容・方法を工夫する。
- ・実践的指導力を育成するために、教材を実際に開発し、模擬授業を行う。教科横断的な教材と授業の開発、主体的・対話的で深い学びに誘う授業を開発する練習を行う。
- ・模擬授業は、グループごとに同時進行で進める。受講生一人の模擬授業を行う時間を十分に確保し、学生参加型のアクティブ・ラーニングを行う。このことによって、教師としての実践的指導力を担保する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前学習としては、テキストであげた『中学校学習指導要領』を読み、第1のレポートの課題である「学習指導要領と教科書との対応関係」読み解く。また、第2の課題である「模擬授業における教材・指導案作成を行う。事後学習としては、自分が行った模擬授業の振り返りをまとめる。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	レポートは2つ、学習指導要領・教科書に関するものと模擬授業に関するものである。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	3分の1以上の欠席の場合は単位認定しない。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは2つある間レポートと模擬授業の振り返りレポートである2つである。これで50%の評価を行う。各回のコメントペーパーの記述、授業中の発言、学習に向かう姿勢、出席で50%の評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中にコメントペーパーを書かせ、意見を発表させ、受講生に共有する。重要なものは次に授業でとりあげる。第1のレポートの講評を授業中に行う。模擬授業のレポートの質を高めるため、模擬授業の内容を第14回目にプレゼンテーションさせる。

教科書

中学校学習指導要領,文部科学省,東山書房,2017

教科書コメント

講義においては、下田作成のレジュメ、資料を配布する。

参考文献

人間形成の論理,上田薫,黎明書房,1992

教科等横断的な教育課程編成の考え方・進め方,加藤幸次,黎明書房,2019

履修上の注意

講義の中でアクティブ・ラーニングを行う。ディスカッションや模擬授業、プレゼンテーションを行う講義であることを理解しておく。

その他

意欲的な学生の参加を希望する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910350101	科目ナンバリング	U910350101
講義名	総合的な学習の時間指導論A（教職課程）		
英文科目名	Teaching Methodes in Integrated Study		
担当者名	柴崎 直人		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 土曜日 1時限 西1-101		

授業概要

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すものである。

本授業は、中学および高等学校の学校教育全体における総合的な学習の時間の意義を理解し、その特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けるとともに、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることを目指すものである。

到達目標

- (1)総合的な学習の時間における適切な指導ができるようにすること
- (2)グループワークを通して様々な総合的な学習の時間が各地で展開されていることを理解すること

授業内容

実施回	内容
第1回	中学校・高等学校の教育課程における総合的な学習の時間の位置づけ
第2回	総合的な学習の時間が創設されるまでの経緯と基本理念
第3回	中学校・高等学校における総合的な学習の時間の学習指導のポイント
第4回	中学校・高等学校における創意を生かした特色ある教育活動①国際理解・情報
第5回	中学校・高等学校における創意を生かした特色ある教育活動②環境
第6回	中学校・高等学校における創意を生かした特色ある教育活動③福祉・健康
第7回	中学校・高等学校における創意を生かした特色ある教育活動④地域・文化・その他
第8回	総合的な学習の時間の指導計画①意義と役割
第9回	総合的な学習の時間の指導計画②指導法
第10回	総合的な学習の時間の模擬授業①進め方のポイント
第11回	総合的な学習の時間の模擬授業②問題解決のためのコミュニケーションとは
第12回	総合的な学習の時間の模擬授業③問題解決への助言のポイント
第13回	総合的な学習の時間の模擬授業④次の課題発見につなげるには
第14回	総合的な学習の時間の評価
第15回	中学校・高等学校における総合的な学習の可能性と今後の課題

授業方法

必要に応じて講義形式とグループワークを併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

当該授業における総合的な学習の時間に関する学習指導要領の該当箇所を熟読しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点については、グループでの活動に積極的に参加し、有意義な討議を構築する学習態度が評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークの課題やレポート等については、それらに付随する学習活動等も含めて授業内において口頭で総合的にフィードバックをおこなう。

教科書

中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編,文部科学省,東山書房,2018,978-4827815610

高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編,文部科学省,学校図書,2019,978-4762505362

その他

- 本講義においては始業時より30分以内を遅刻とし、それを超えた場合は欠席として扱う。
- 遅刻とは、始業時刻に着席していなかった場合をさす。
出席確認は始業時刻に開始するので、開始の時点での未着席は遅刻として扱う。
- 遅刻に際しては、講師が特に指示しない限りはA4版のレポート用紙等に日付・入室時刻・班・氏名・遅刻理由を記述し(書式自由)、当該講義の終了時に提出すること。提出なき場合は始業後30分以内に入室していたとしても欠席扱いとする。講師が特に指示しない限りは、口頭及び後日になってからの申し出は、原則としてこれを受理しない。
- 交通機関等の遅延による遅刻は、各機関が発行する遅延証明書の裏面に入室時刻・班・氏名を記述して提出するものとする。
- インフルエンザ及び忌引き等、やむを得ない欠席については、各証明書等もしくはそのコピー、画像等の提示がある場合に限り欠席として扱わない。このような場合には証明書等の提示は後日でよく、AIMS等による当日の連絡は不要である。なお緊急連絡先はshiba@gifu-u.ac.jpとする。
- これら出欠席の管理にあたっては各人が責任をもって記録・把握を行い、他に依存することのないよう強く留意されたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910402101	科目ナンバリング	U910402101
講義名	生徒・進路指導論A（教職課程）		
副題	援助することと教育すること		
英文科目名	Teaching Methodes in Student's and Career's Guidance		
担当者名	宮盛 邦友・黒川 雅子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央-404		

授業概要

本授業は、指導を思考することを通して、生徒指導・進路指導の理論・方法を理解することを目標としている。生徒指導・進路指導が、学校教育活動としてなぜ必要なのか。それは、生徒が主体的になるために、どのような役割をはたしているのか。教師は、生徒に対して、どのような援助をおこなえばよいのか。このことを、ともに学習・研究することにした。

到達目標

- ①生徒指導の理論と方法を理解する。
- ②進路指導の理論と方法を理解する。
- ③①および②を通して、教職の専門性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	啓く
第2回	生徒指導の意義と原理
第3回	生徒指導の進め方
第4回	校則
第5回	体罰
第6回	児童・生徒の問題行動と懲戒、出席停止
第7回	いじめに対する対応と責任
第8回	不登校
第9回	児童虐待への対応
第10回	学校安全
第11回	進路指導の理論
第12回	進路指導の実践①ーキャリア・ガイダンス
第13回	進路指導の実践②ーキャリア・カウンセリング
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業方法

授業のすすめ方は教員の講義を基本とするが、その内容については、学生の興味・関心もとりいれていく。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。（生徒指導は黒川が、進路指導は宮盛が、それぞれ担当する。）

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。（約1時間程度）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	1回
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	3回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	数回
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

生徒指導・進路指導論,黒川雅子・山田知代・坂田仰編,教育開発研究所,2019
現代の教師と教育実践,宮盛邦友,学文社,第2,2019

戦後史の中の教育基本法,宮盛邦友,八月書館,2017

参考文献

生徒指導提要,文部科学省,教育図書,2011

生徒指導・進路指導,黒川雅子・山田知代編著,学事出版,2014

子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014

若者はなぜ「就職」できなくなったのか?,児美川孝一郎,日本図書センター,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910402102	科目ナンバリング	U910402102
講義名	生徒・進路指導論B（教職課程）		
副題	援助することと教育すること		
英文科目名	Teaching Methodes in Student's and Career's Guidance		
担当者名	宮盛 邦友・黒川 雅子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

本授業は、指導を思考することを通して、生徒指導・進路指導の理論・方法を理解することを目標としている。生徒指導・進路指導が、学校教育活動としてなぜ必要なのか。それは、生徒が主体的になるために、どのような役割をはたしているのか。教師は、生徒に対して、どのような援助をおこなえばよいのか。このことを、ともに学習・研究することにした。

到達目標

- ①生徒指導の理論と方法を理解する。
- ②進路指導の理論と方法を理解する。
- ③①および②を通して、教職の専門性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	啓く
第2回	生徒指導の意義と原理
第3回	生徒指導の進め方
第4回	校則
第5回	体罰
第6回	児童・生徒の問題行動と懲戒、出席停止
第7回	いじめに対する対応と責任
第8回	不登校
第9回	児童虐待への対応
第10回	学校安全
第11回	進路指導の理論
第12回	進路指導の実践①ーキャリア・ガイダンス
第13回	進路指導の実践②ーキャリア・カウンセリング
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業計画コメント

本授業は、集中講義(9月・3日間)でおこなう。

授業方法

授業のすすめ方は教員の講義を基本とするが、その内容については、学生の興味・関心もとりにいれていく。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。(生徒指導は黒川が、進路指導は宮盛が、それぞれ担当する。)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。(1日約5時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	1回
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	3回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	数回
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

生徒指導・進路指導論,黒川雅子・山田知代・坂田仰編,教育開発研究所,2019
現代の教師と教育実践,宮盛邦友,学文社,第2,2019
戦後史の中の教育基本法,宮盛邦友,八月書館,2017

参考文献

生徒指導提要,文部科学省,教育図書,2011
生徒指導・進路指導,黒川雅子・山田知代編著,学事出版,2014
子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014
若者はなぜ「就職」できなくなったのか?,児美川孝一郎,日本図書センター,2011

履修上の注意

4月上旬におこなうガイダンスに必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910402103	科目ナンバリング	U910402103
講義名	生徒・進路指導論C（教職課程）		
副題	援助することと教育すること		
英文科目名	Teaching Methodes in Student's and Career's Guidance		
担当者名	宮盛 邦友・黒川 雅子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 中央-404		

授業概要

本授業は、指導を思考することを通して、生徒指導・進路指導の理論・方法を理解することを目標としている。生徒指導・進路指導が、学校教育活動としてなぜ必要なのか。それは、生徒が主体的になるために、どのような役割をはたしているのか。教師は、生徒に対して、どのような援助をおこなえばよいのか。このことを、ともに学習・研究することにした。

到達目標

- ①生徒指導の理論と方法を理解する。
- ②進路指導の理論と方法を理解する。
- ③①および②を通して、教職の専門性を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	啓く
第2回	生徒指導の意義と原理
第3回	生徒指導の進め方
第4回	校則
第5回	体罰
第6回	児童・生徒の問題行動と懲戒、出席停止
第7回	いじめに対する対応と責任
第8回	不登校
第9回	児童虐待への対応
第10回	学校安全
第11回	進路指導の理論
第12回	進路指導の実践①ーキャリア・ガイダンス
第13回	進路指導の実践②ーキャリア・カウンセリング
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業方法

授業のすすめ方は教員の講義を基本とするが、その内容については、学生の興味・関心もとりいれていく。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。（生徒指導は黒川が、進路指導は宮盛が、それぞれ担当する。）

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。（約1時間程度）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	1回
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	3回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	数回
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

生徒指導・進路指導論,黒川雅子・山田知代・坂田仰編,教育開発研究所,2019
現代の教師と教育実践,宮盛邦友,学文社,第2,2019

戦後史の中の教育基本法,宮盛邦友,八月書館,2017

参考文献

生徒指導提要,文部科学省,教育図書,2011

生徒指導・進路指導,黒川雅子・山田知代編著,学事出版,2014

子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014

若者はなぜ「就職」できなくなったのか?,児美川孝一郎,日本図書センター,2011

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910410101	科目ナンバリング	U910410101
講義名	教育相談A（教職課程）		
英文科目名	Seminar in Educational Consulting		
担当者名	伊藤 直樹		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 中央-402		

授業概要

この授業では、教職に就く上で必要となる教育相談の理論及び方法に関する基礎的な知識・技法について学ぶ。具体的には、学校や教育場面で必要となるカウンセリングなどの相談・支援の技術を理解する。また、学校場面で教師が直面する課題のうち、「学級崩壊」、「いじめ」、「不登校」を取り上げ、その概要について理解を深めるとともに、保護者対応や関係機関と連携について学ぶ。これらの点を考慮し、授業は実践的な内容を盛り込みながら進める。

到達目標

- ①教育場面におけるカウンセリングの基礎を理解する
- ②生徒理解の方法について理解する
- ③学級崩壊の概要と対応法について理解する
- ④いじめの概要と対応法について理解する
- ⑤不登校の概要と対応法について理解する
- ⑥スクールカウンセラーと教師の連携について理解する
- ⑦保護者対応の方法及び関係機関との連携の進め方について理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	教育相談の理論及び方法を学ぶ意義
第2回	教育場面におけるカウンセリングの基礎(1)～一般の相談とカウンセリングの違い～
第3回	教育場面におけるカウンセリングの基礎(2)～応答構成(基礎編)～
第4回	教育場面におけるカウンセリングの基礎(3)～応答構成(応用編)～
第5回	教育場面におけるカウンセリングの基礎(4)～カウンセリングの基礎技法～
第6回	「学級崩壊」(1)～「学級崩壊」の実際～
第7回	「学級崩壊」(2)～「学級崩壊」への対応(学級への対応と保護者対応)～
第8回	「学級崩壊」(3)～「学級崩壊」と教師の生徒理解～
第9回	「いじめ」(1)～「いじめ」の現状～
第10回	「いじめ」(2)～「いじめ」と教師～
第11回	「いじめ」(3)～「いじめ」への対応(学級及び本人への対応と保護者対応)～
第12回	「不登校」(1)～「不登校」の現状～(現状の理解と保護者対応および関連機関との連携)
第13回	「不登校」(2)～「不登校」への対応(1)(学級への心理教育的な対応)～
第14回	「不登校」(3)～「不登校」への対応(2)(スクールカウンセラーの対応)～
第15回	まとめ

授業方法

授業は基本的に講義形式で進めるが、授業内容に応じて、適宜、グループワークや個別のワークも行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に各回のテーマについて、自己の小学校・中学校・高校時の学校生活をもとに振り返っておくこと。講義終了後に、教科書及び各回に配付する資料をもとに復習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学期末に課す。このレポートの提出がない場合には単位を取得することはできない。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	60 %	毎回の授業終了時にその回の授業内容の理解度を見るために小レポートを課す。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークについては、その都度授業内でフィードバックを行う。
提出された小レポートについては、必要に応じて、次の回の授業において紹介するか、授業内容に反映させる。

教科書

教育臨床論—教師をめざす人のために:Psycho Critique,伊藤直樹編著,批評社,増補新,2020

教科書コメント

授業は基本的に教科書に沿って行われる。

参考文献

子どもと教師のもつれ—教育相談から:子どもと教育,近藤邦夫著,岩波書店,初,1995,978-4-0000-3938-3

パーソナリティ理論:ロージャズ全集,ロージャズ, C. R. 著,岩崎学術出版,1967,978-4-7533-6700-9

参考文献コメント

上記の他に, 授業において適宜, 紹介する。

履修上の注意

現場での実践に役立つように, なるべく具体的な事例を提示しつつ進める。教育相談に関する基礎的な実習も行う。また, 受講者には自分の考えを他の学生に適切に伝えることや他の学生の発表から学ぶ姿勢が求められる。

その他

授業時間以外において特別に連絡が必要になった場合には, メール(iton@meiji.ac.jp)で連絡をすること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910410102	科目ナンバリング	U910410102
講義名	教育相談B（教職課程）		
英文科目名	Seminar in Educational Consulting		
担当者名	金子 智栄子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 1時限 中央-401		

授業概要

現代の学校現場において、生徒の不適応行動の原因は複合的多次元的となっている。教師は、中学生や高校生の心身の発達過程と関連させながら、生徒の問題行動を理解し対応する必要がある。さらに、教師はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関連施設などと連携し、問題事態を解決していくことが重要になってくる。そこで本授業では、カウンセリングに関する基礎的知識を学び、中学校・高等学校における教育相談の理論及び方法について理解することを目的とする。

到達目標

受講者がカウンセリングの定義・理論・技法を理解し、教育現場における生徒の問題行動等を把握して対応できるようになると共に、さらには保護者をも援助もできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	中学校・高等学校における教育相談体制について
第2回	不適応行動の諸相とその原因(1) 中学生の発達的特徴と問題行動
第3回	不適応行動の諸相とその原因(2) 高校生の発達的特徴と問題行動
第4回	心理療法について(1) フロイトの精神分析、ユングの心理分析
第5回	心理療法について(2) 自我心理学の立場における心理分析など
第6回	カウンセリングの学派について(1) 指示的・非指示的・折衷的カウンセリングについて
第7回	カウンセリングの学派について(2) 認知行動的・開発的カウンセリングについて
第8回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応(1) 不登校
第9回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応(2) いじめ、発達障害
第10回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応(3) 神経症、心身症
第11回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応(4) 非行
第12回	学校場面で生じやすい問題行動とその対応(5) 勉強嫌い、無気力
第13回	カウンセリング・ロールプレイ
第14回	ノンバーバル・コミュニケーションの活用 授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業方法

講義と演習を組み合わせながら授業を進める。演習においては、グループワークやグループディスカッションなどを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に教科書や資料の該当箇所を読んでおくこと(約30分)授業後はノート整理を行うこと(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	授業内の課題レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	グループ活動への参加意欲を重視する
その他(備考欄を参照)	60 %	授業内テストにより達成目標への到達度を測定

成績評価コメント

グループ活動への参加意欲など:20%

課題レポート:20%

授業内テストにより到達目標への到達度を測定:60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。

教科書

教育相談とカウンセリング,金子智栄子,樹村房,初版,2018,9784883672967

参考文献コメント

授業時に紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910410103	科目ナンバリング	U910410103
講義名	教育相談C（教職課程）		
副題	～子どもの心を支える教育実践～		
英文科目名	Seminar in Educational Consulting		
担当者名	谷口 明子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西1-310		

授業概要

現代の学校現場において、生徒の不適応行動の原因は複合的多次元的となっている。教師は、中学生や高校生の心身の発達過程と関連させながら、生徒の問題行動を理解し対応する必要がある。さらに、教師はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関連施設などと連携し、問題事態を解決していくことが重要になってくる。そこで、本授業では、カウンセリングに関する基礎的知識を学び、中学校・高等学校における教育相談の理論及び方法について理解することを目的とする。

到達目標

受講者がカウンセリングの定義・理論・技法を理解し、教育現場における生徒の問題行動等を把握して対応できるようになると共に、さらには保護者をも援助できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	中学校・高等学校における教育相談体制：チーム学校とは
第2回	中学性・高校生の発達的特徴と問題行動
第3回	カウンセリングの基礎理論：パーソナリティと生涯発達の理論
第4回	心理療法の基礎(1)：精神分析・来談者中心療法
第5回	心理療法の基礎(2)：行動療法・認知療法～相談の技術：ロールプレイ
第6回	心理療法の基礎(3)：認知行動療法
第7回	児童・生徒の理解(1)：他者理解と自己理解
第8回	児童・生徒の理解(2)：アセスメントから支援へ
第9回	予防・開発的取り組みと教育相談
第10回	不登校の理解と支援
第11回	いじめの理解と支援
第12回	発達障害の基本理解：障害者差別解消法を含めて
第13回	保護者への支援：困った保護者への対応
第14回	教育相談理念を活かした教育活動：病気の子どもへの教育支援
第15回	全体総括

授業方法

基本的に講義形式ですが、DVD視聴やロールプレイ、グループワーク、ディスカッションを適宜導入します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・予習：事前にテキストや指示された資料の該当箇所を読んでおくこと(約1時間)。
- ・復習：授業後なるべく早いタイミングで配布資料およびノートを読み返し(30分)、次の授業までに疑問点を明らかにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	持ち込み不可
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパーやディスカッションシートを評価対象とする。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ※出席が全体の3分の2に満たない場合は単位認定を行いません。
- ・次に挙げる事柄について基礎知識を習得し、現代の教育課題について論理的に考察できているかを評価のポイントとする。

- －学校におけるカウンセリングについての基礎知識および技法を習得できているか。
- －幼児・児童・生徒を理解するための理論と方法について習得できているか。
- －いじめ・不登校・発達障害など現代教育現場が抱える諸問題について理解できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントやディスカッションシートについては、翌週授業時にフィードバックを行う。

教科書

絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う,水野治久・本田真大・串崎真志編著,ミネルヴァ書房,2017,978-4623081097

教科書コメント

単元ごとに授業用ハンドアウトを配布する。

参考文献

教師のための失敗しない保護者対応の鉄則,河村茂雄,学陽書房,2007,978-4313630642

いじめー教室の病,森田洋司・清永賢二,金子書房,1994, 978-4760821099

参考文献コメント

他, 参考文献は随時紹介する。

履修上の注意

受講生である皆さんとともに授業を創り上げていきたいので、受講生の積極的参加と行動力に期待します。

その他

質問や諸連絡は、初回授業時公開するアドレス宛にメールでお問い合わせください。

※オフィスアワーは授業前のお昼休みになりますが、事前にアポイントメントをおとりください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910500101	科目ナンバリング	U910500101
講義名	授業指導論（教職課程）		
英文科目名	Theory of Teaching		
担当者名	飯沼 慶一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 北1多目的教室B		

授業概要

教科の学習指導に関して、いっそう研鑽を積み、指導力の向上を目指す。学習指導に関する文献を基に、授業指導の多様な方法や指導の課題等について学び、また実際の教室を想定して、各自が実際に活動を行い、相互啓発をしながらスキルアップを目指す。

到達目標

学習指導の方法の特徴を理解し、学習目標に応じて適切な方法が判断できるようになる。
授業におけるさまざまな場面において、状況に応じて適切な指導ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	授業開きの方法:アイスブレイク
第3回	授業開きの方法:アイスブレイク実習
第4回	発問と指示のあり方
第5回	参加型学習法について
第6回	伝える技術①:一方向か双方向か
第7回	伝える技術②:論理的に伝える
第8回	GWTとワークショップ
第9回	コミュニケーションスキルを磨く①:ランキング
第10回	コミュニケーションスキルを磨く②:フォトランゲージ
第11回	コミュニケーションスキルを磨く③:ロールプレイとディベート
第12回	コミュニケーションスキルを磨く④:無言のトランプゲーム
第13回	話す・聞くについて
第14回	自分自身を見つめる
第15回	総括

授業計画コメント

状況に応じて授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

GWTの手法を用い、実践の場を設定し、技能を磨いていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示された課題の予習

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	事前学習に基づいた積極的発言

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

次回授業前半に振り返る。

教科書コメント

開講時に指示する。

参考文献コメント

開講時に指示する。

その他

シラバスの内容を変更する場合があります。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910501101	科目ナンバリング	U910501101
講義名	部活動指導論（教職課程）		
英文科目名	Extracurricular Club Activities		
担当者名	長沼 豊		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西5-301		

授業概要

中学校、高等学校の部活動について、その教育的意義、指導のあり方、教育課程外の部活動が肥大化した要因と背景、外部指導員等との連携方策、顧問教諭の過重負担問題等について考察する。

到達目標

- ・日本における部活動の位置づけ、特徴、あり方、課題、指導法等について多様な視点から理解している
- ・部活動について教員として必要な知識を身につけている

授業内容

実施回	内容
第1回	教育課程における部活動の位置付け
第2回	部活動の教育的意義
第3回	部活動の歴史と変遷
第4回	運動部活動の特質
第5回	文化部活動の特質
第6回	部活動のあり方に関する総合的なガイドライン
第7回	部活動における顧問教諭の役割
第8回	部活動における外部指導者、部活動指導員の役割
第9回	部活動を巡る課題
第10回	現職教員による体験談
第11回	部活動における学校と地域との連携・協働
第12回	持続可能な部活動のあり方とは
第13回	今後の部活動の展望
第14回	授業のまとめ
第15回	振り返り

授業方法

講義、文献講読、グループ協議・発表など多様な方法を用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

関連する文献等を読んで課題の分析・考察を行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

最終の授業時に行う。

教科書

- 部活動の不思議を語り合おう,長沼豊,ひつじ書房,2017
- 部活動改革2.0 文化部活動のあり方を問う,長沼豊編著,中村堂,2018

参考文献

- 運動部活動の戦後と現在 なぜ部活動は学校教育に結び付けられるのか,中澤篤史,青弓社,2014
- 運動部活動の教育学入門 歴史とのダイアログ,神谷拓,大修館書店,2015

履修上の注意

中学・高校の教員になりたい学生には履修を推奨する。

1. 本授業では環境への配慮から紙資料の配付を自粛する。授業資料は授業前にGポートから履修者にPDFファイルを配信する。履修者は各自でダウンロードし、授業には当該ファイルを開覧できるスマートフォン、タブレット端末、ノートPC等を持参するか、印刷したものを持参すること。
2. 授業中にWEBサイトを見てもらうことがあるため、QRコードを読みとることが出来る情報端末(スマートフォン等)を持参すること。

その他

【実務経験のある教員による授業科目】

教諭経験のある担当教員が、実践に即した具体的な内容を解説するほか、学校現場で扱う対話型の授業を体験的・実践的に行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910502101	科目ナンバリング	U910502101
講義名	教職総合研究 I (教職課程)		
英文科目名	Integrated Study on Teaching Profession I		
担当者名	岩崎 淳		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1-213		

授業概要

中学・高校の国語科の学習指導に関して、いっそう研鑽を積み、指導力の向上を目指す。指導の方法や課題等について学び、また実際の教室を想定して、各自が実際に活動を行い、相互啓発しながらスキルアップを目指す。

到達目標

学習指導の方法の特徴を理解し、学習目標に応じて適切な方法が判断できるようになる。
授業におけるさまざまな場面において、状況に応じて適切な指導ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	意見文の構成
第3回	意見文の指導
第4回	授業の型
第5回	現代文の指導 小説
第6回	現代文の指導 詩
第7回	現代文の指導 説明文
第8回	古典の指導 物語
第9回	古典の指導 和歌
第10回	古典の指導 俳文
第11回	古典の指導 漢文
第12回	言葉の指導 文法
第13回	言葉の指導 漢字
第14回	言葉の指導 語彙・表記
第15回	総括

授業計画コメント

状況に応じて授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

前半は、教科書や担当者の作成した教材を読み、講義形式で学習指導に必要な事項の理解を深める。後半は実践の場を設定して活動したり、受講者による発表を行ったりする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示された課題の予習(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト(30%)、レポート(30%)、平常点(40%)等の総合評価

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートに対してコメントする。

教科書コメント

開講時に指示する。

参考文献コメント

開講時に指示する。

履修上の注意

中学校高校の国語科教員を志望している者を対象としている。
国語科教育法の I の履修を終えていることを本授業科目の履修の条件とする。

その他

シラバスの内容を変更する場合がある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910503101	科目ナンバリング	U910503101
講義名	◎教職総合研究Ⅱ（教職課程）		
副題	教育実践と教育思想		
英文科目名	Integrated Study on Teaching Profession Ⅱ		
担当者名	宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 中央-507.第1学期 水曜日 2時限 中央-507		

授業概要

本授業では、教育、子ども・人間、学校・公教育について、教育学理論・教育人間学・臨床教育学を通して、分析をする。特に、人間形成と学校文化を視野に入れて、演習をおこないたい。（「教育基礎」・「生徒指導論」・「教育制度」などの講義をさらに深めるセミナーである。）

到達目標

- ①教育・子どもを人間形成の観点から理解する。
- ②教育・公教育を学校文化の観点から理解する。
- ③開かれた教職の専門性を教育学の観点から理解する。

授業内容

実施回 内容

第1回	啓く
第2回	大人になることのむずかしさ
第3回	世代継承サイクルの異変
第4回	規範意識・道徳意識の発達と社会化をめぐって
第5回	『治療文化』（中井久夫）の蘇生に向けて
第6回	今日の教師論のゆくえ
第7回	共通教養論の再考にむけて
第8回	「学校のことば」のゆくえ
第9回	岐路に立つ国民共通教養
第10回	『能力と発達とが学習』（勝田守一）を読む
第11回	青年の学校の再生を求めて
第12回	教育における伝統と未来、拘束と自由をめぐる問題
第13回	C・シュミットにおける〈悪と権力〉、〈規範と決断〉をめぐる問題
第14回	まとめ・ふりかえり
第15回	結ぶ

授業計画コメント

本授業は、2コマ隔週でおこなう。

授業方法

授業のすすめ方は学生の発表を基本とする。積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することが望まれる。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

テキストの指定されている箇所を、必ず、読んできてほしい。そして、疑問をもって授業にのぞんでほしい。（約1時間程度）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	2回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	12回
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記に基づいて、総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書

世代サイクルと学校文化,鈴木聡,日本エディタースクール出版部,2002

青年期の教育,鈴木聡・W. ウィルヘルム・G. ヴィネケン・P. ゲーヘーブ,明治図書,1986

親子ストレス,汐見稔幸,平凡社新書,2000

「教育」からの脱皮,汐見稔幸,ひとなる書房,2000

参考文献

教育人間学のために,西平直,東京大学出版会,2005

子どもの生存・成長・学習を支える新しい社会的共同,宮盛邦友編著,北樹出版,2014

その他

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910504101	科目ナンバリング	U910504101
講義名	教職総合研究Ⅲ（教職課程）		
副題	学校教育の課題		
英文科目名	Integrated Study on Teaching Profession Ⅲ		
担当者名	藤原 孝子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 北1-305		

授業概要

学校教育の様々な課題について、その背景と課題解決の方策について考え、議論し、自分なりの考えを明確にする。

到達目標

学校教育の様々な課題について理解を深め、自分なりの考えを明確に表現することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	教師に求められる資質・能力
第3回	子供に育成すべき資質・能力
第4回	子供理解と学級経営
第5回	規範意識の育成
第6回	いじめ不登校
第7回	発達障害と個別の教育的ニーズ
第8回	学力の向上
第9回	主体的な学びと授業改善
第10回	見方・考え方を働かせる
第11回	豊かな心の育成
第12回	保護者からの苦情
第13回	教員のモラル
第14回	チーム学校
第15回	まとめ

授業方法

①テーマについて問題点を考える ②課題をもってグループで協議する ③グループ協議のまとめを発表する ④自分の考えをまとめる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次の時間のテーマについて情報収集し、資料を持参すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	小論文を課す。1200字程度。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席重視 毎回プリント提出
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの課題(小論文)を第10回に提示する。平常点については出席重視 3回欠席は不可。実習時には証明書を必ず事前に提出のこと。プリント提出は平常点に加点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のプリントは集める。コメントを入れて次回返却する。

参考文献

学習指導要領解説 総則編
生徒指導提要

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910505101	科目ナンバリング	U910505101
講義名	教職総合研究Ⅳ（教職課程）		
英文科目名	Integrated Study on Teaching Profession Ⅳ		
担当者名	南 哲朗		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 南1-304		

授業概要

学習指導案作成や模擬授業、生徒指導や場面指導など実践的な学習を通して、教育実習および学校現場の教師に求められる資質・能力を育成していく。したがって本授業においては、必然的に教育実習や教員採用に際して求められる具体的な見識や対応力を身につけることもめざすことになる。

学校現場の実態や教師に求められる資質・能力など基本的かつ実践的なことについて講義を行うが、指導案作成、模擬授業、生徒指導や場面对応に関するロールプレイ、それらに伴うなどアクティブな学びを主とする。教師としての服務や、働き方改革等学校現場の現状および変容も展望する。

到達目標

- 学習指導案を作成できるようになる。
- 自ら作成した学習指導案に即して授業(模擬授業)を実践できるようになる。
- 場面对応を通して、生徒指導や地域・保護者への適切な対応に求められる見識や手法を身に付ける。
- 学習指導、生活指導はじめ多様なマネジメント力など現場の教師に求められる資質・能力を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	○オリエンテーション ・本授業で何をどのように学び、何を身に付けるかを確認する。 ・教育実習の時期を踏まえ、模擬授業や場面指導実践の日程を確認する。
第2回	○教師に求められる資質・能力とはどのようなものか(主として中学校・高校の教師) ・「学習指導力」、「生徒理解・指導力」、「マネジメント力(保護者、地域、教職員、等)」
第3回	○学習指導案の作成方法、および模擬授業の実施について ・基本的な形式と模擬授業の略案の形式 ・模擬授業の要領(時間、資料準備、等)
第4回	○生徒理解・生徒指導において留意すべき事項 ・学校現場における事例への対処 ・採用試験等に際しての場面指導の基本対応
第5回	模擬授業① ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(国語分野、ほか) ・授業の振り返り討論 場面指導① ・示された事例をもとに個々が場面指導(学習指導に関して) ・振り返り討論
第6回	模擬授業② ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(社会科系分野、他) ・授業の振り返り討論 場面指導② ・示された事例をもとに個々が場面指導(生活指導に関して) ・振り返り討論
第7回	模擬授業③ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(数学分野、ほか) ・授業の振り返り討論 場面指導③ ・示された事例をもとに個々が場面指導(保護者、地域対応に関して) ・振り返り
第8回	模擬授業④ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(理科系分野、他) ・授業の振り返り討論 教師力育成① ・主に集団面接の形式による教師力育成(教育課題に関して) ・振り返り討論
第9回	模擬授業⑤ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(外国語分野、ほか) ・授業の振り返り 教師力育成② ・主に集団面接の形式による教師力育成(自治体の教育方針、テーマ) ・振り返り
第10回	模擬授業⑥ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(道徳、ほか) ・授業の振り返り 教師力育成③ ・主に個人面接の形式による教師力育成(教師の資質・能力、適性) ・振り返り
第11回	模擬授業⑦ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(総合、特活、ほか) ・授業の振り返り 教師力育成④ ・主に個人面接の形式による教師力育成(学習指導に関して) ・振り返り
第12回	模擬授業⑧ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(保体、家庭科、ほか) ・授業の振り返り 教師力育成⑤ ・主に個人面接の形式による教師力育成(生活指導、進路に関して) ・振り返り
第13回	模擬授業⑨ ・各自作成した指導案に基づく模擬授業(芸術、情報、ほか) ・授業の振り返り 教師力育成⑥ ・主に個人面接の形式による教師力育成(保護者、地域、同僚、に関して) ・振り返り
第14回	○授業のまとめ ・指導案作成、授業実践、生徒理解、生徒指導、地域や保護者対応、教職員同僚との協働、等に求められるスキルや心構え、等についてまとめる。
第15回	○振り返り・到達度確認 ・指導案作成、授業実践、生徒理解、生徒指導、地域や保護者対応、同僚性等の資質・能力について、自らの学びの到達度を確かめる。

授業計画コメント

上記15回の計画を基本とする。実際には受講者の人数により、場面指導(ロールプレイ)および模擬授業の形態(単独授業、ペア授業、時間、等)も限定される。また、受講者の教育実習日程によっても計画や順序等の修正を適宜行う。第1回目の授業で受講者の教育実習日程等の確認を行うので、第1回目の授業には必ず参加願いたい。そこで改めて予定が確定する。

授業方法

本授業の到達目標は、学習指導案の作成、授業実践、生徒理解、生徒指導、地域や保護者対応、教職員同僚との協働、などに求められるスキルや心構え等を理解し身に付けることである。そのために指導案作成、模擬授業、場面指導に関するロールプレイ、面接形式による意志表明などアクティブな学習活動が主となる。それらに際し、必要な場面で基本的なことから関する講義を行う。なお、模擬授業、場面指導、面接形式意思表明等の回数は、受講生の参加可能人数によって異なる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 毎時間の後に、配布資料等をもとに本授業で学んだことを復習する。(30～50分)
- ゼミの担当教員の指導を受けるなどして、模擬授業実施日までに学習指導案を各自で作成しておく。(2～3時間)
- 教育実習およびボランティアやATなどで学校を訪れた際に、学習指導(授業)、生徒理解・生徒指導、教職員との協働、地域・保護者への対応、等について学んだことを記録(メモ)しておく。(中・長期的)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	本授業で学んだこと、および教職実践への展望
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席、学習活動の内容、毎時振り返り、協働性、等
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- レポートにおいては、本授業で学んだことを踏まえ、自らの被教育経験やボランティア校における教師や生徒の現状をまじえながら自らどのような教師をめざすのか、等が具体的に論じられていること。
- 平常点においては、出席日数(教育実習等を除く)、模擬授業や場面对応のロールプレイなどの学習活動の内容、毎時間の振り返りの内容、仲間との協力・協調の様子、などを評価対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- 毎時間の振り返りに記された各自の学びについて、プリントに整理して次時に配布する。
- 模擬授業や場面指導の討論内容について、担当者の指摘もまじえ、プリントに整理して次時に配布する。
- 最終日提出のレポートについては、担当者のコメントを添えたものを可能な範囲で各自に返却する。

教科書コメント

各自が模擬授業を行う教科(科目)の、文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 ○○編」、同「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 ○○編」を準備すること。

参考文献コメント

授業中に適宜提示する。必要に応じて資料を配布する。

履修上の注意

前述の通り、第1回目の授業には必ず出席すること。受講生の人数、教育実習の日程等によりシラバスおよび以降の授業計画を修正する必要があるため、ぜひとも厳守されたい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910600101	科目ナンバリング	U910600101
講義名	教育実習 I (教職課程)		
副題	令和2年度実習校実習予定者		
英文科目名	Training of Instruction I		
担当者名	山崎 準二.岩崎 淳.梅野 正信.宮盛 邦友		
単位	1	配当年次	学部 4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

教育実習は、本学における事前指導・事後指導「教育実習 I」と実習校における実習「教育実習 II・III」に分けられる。従って、「教育実習 I・II・III」はすべて必修であり、「教育実習 II・III」履修同年度に「教育実習 I」を必ず履修登録すること。

到達目標

1. 教育実習を理論的に理解する。
2. 教職の専門性を理論的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	事前指導①(宮盛)
第2回	事前指導②(山崎)
第3回	事前指導③(岩崎)
第4回	事前指導④(梅野)
第5回	事後指導①(梅野)
第6回	事後指導②(山崎)
第7回	事後指導③(山崎)
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業計画コメント

実習校実習の事前事後において7回にわたり集中授業を行う。既に決まっている開講日時は、事前指導①=4月8日(水)18:00、事前指導②=4月9日(木)18:00、である。それ以後については、決まり次第伝達する。

授業方法

講義担当者によって、講義形式、グループワーク等の違いをもたせる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート:50%(各講義テーマに即しての課題レポート)
平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(受講態度及びグループ作業等への参加態度)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業なので、授業中に随時フィードバックしていく。

教科書コメント

特に指定しないが授業中に随時指示する。

参考文献コメント

特に指定しないが授業中に随時指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910601101	科目ナンバリング	U910601101
講義名	教育実習Ⅱ（教職課程）		
副題	令和2年度実習校実習予定者		
英文科目名	Training of Instruction Ⅱ		
担当者名	山崎 準二.岩崎 淳.梅野 正信.宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

教育実習は、本学における事前指導・事後指導「教育実習Ⅰ」と実習校における実習「教育実習ⅡⅢ」に分けられる。従って、教育実習ⅠⅡⅢはすべて必修であり、「教育実習ⅡⅢ」は、実習校実習履修年度に必ず履修登録すること。

到達目標

1. 教育実習を実践的に理解する。
2. 教職の専門性を実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	各自の実習校において、それぞれ決められた期間に教育実習を行う
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

実習校実習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教育実習期間中に随時フィードバックしていく。

履修上の注意

履修者数制限有り。

その他

中学校・高等学校両方の教員免許取得希望者で3週間以上の実習を行う者は、「教育実習ⅡⅢ」両方を履修・修得すること。高等学校教員免許のみ取得希望者で2週間実習を行う者は、「教育実習Ⅱ」のみを履修・修得すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910602101	科目ナンバリング	U910602101
講義名	教育実習Ⅲ（教職課程）		
副題	令和2年度実習校実習予定者		
英文科目名	Training of Instruction Ⅲ		
担当者名	山崎 準二.岩崎 淳.梅野 正信.宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

教育実習は、本学における事前指導・事後指導「教育実習Ⅰ」と実習校における実習「教育実習ⅡⅢ」に分けられる。従って、教育実習ⅠⅡⅢはすべて必修であり、「教育実習ⅡⅢ」は、実習校実習履修年度に必ず履修登録すること。

到達目標

1. 教育実習を実践的に理解する。
2. 教職の専門性を実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	各自の実習校において、それぞれ決められた期間に教育実習を行う
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業方法

実習校実習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教育実習期間中に随時フィードバックしていく。

履修上の注意

履修者数制限有り。

その他

中学校・高等学校両方の教員免許取得希望者で3週間以上の実習を行う者は、「教育実習ⅡⅢ」両方を履修・修得すること。高等学校教員免許のみ取得希望者で2週間実習を行う者は、「教育実習Ⅱ」のみを履修・修得すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910700201	科目ナンバリング	U910700201
講義名	教職実践演習(中・高)A (教職課程)		
英文科目名	Practical Study of Teaching Profession		
担当者名	宮盛 邦友・梅野 正信・久保田 福美・山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 中央-404		

授業概要

教職実践演習は、教職課程の全課程(「教職に関する科目」および「教科に関する科目」など)を通して理解し身につけた資質能力が、教員としての必要な能力として形成されたか、について最終的に確認することを目的としている。いわば、「大学における教員養成の集大成」として位置づけられている科目である。受講学生には、この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であり、どのようにして乗り越えることができるのかを認識することで、よりよい教員生活がスタートできるようになることを期待されている。

到達目標

- ①教職を理論的・実践的に理解する。
- ②教職の専門性を理論的・実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションー「履修カルテ」を用いての教職課程履修全体に対するリフレクションの意義と方法
第2回	教科指導①授業の型
第3回	教科指導②学習指導の考え方
第4回	教科指導③教科教育の意義
第5回	生徒指導①子ども理解
第6回	生徒指導②学級担任の任務と学級集団づくり
第7回	生徒指導③社会人としての基本
第8回	確認①ー「履修カルテ」を用いた教科指導・生徒指導における自己の到達点と今後の課題
第9回	教師論①教職の意義
第10回	教師論②子どもに対する教員の義務
第11回	教師論③職務内容
第12回	学校論①社会の変化と学校の役割
第13回	学校論②教職員と共同した学校運営
第14回	学校論③保護者・地域との連携
第15回	確認②ー「履修カルテ」を用いた教師論・学校論における自己の到達点と今後の課題

授業計画コメント

本演習は宮盛邦友、梅野正信、山崎準二、久保田福美の4人が、それぞれ生徒指導、学校論、教師論、教科指導を担当する。

授業方法

各担当者が「履修カルテ」をふまえながら各回のテーマに即した解説を行ったあと、受講者による教育実習を通して体験した具体的な問題などについて「履修カルテ」に基づき話し合う・文章を書く等の活動を随時取り入れて、理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教職に向けて、自己の到達点と今後の課題が明確にできたかどうかの状況を、「履修カルテ」やレポート等により確認し、総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書コメント

特に指定しないが、教職課程履修全体のリフレクション活動を行うために「履修カルテ」(必携)を活用する。

参考文献コメント

特になし。必要に応じて随時資料を配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本演習はA～Dの4コマが開設されているが、履修登録にあたってはあらかじめ掲示等で指定された科目を登録すること。また、本演習の単位を修得できなかった場合には、教員免許が取得できないことをしっかり認識して授業に臨むこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910700202	科目ナンバリング	U910700202
講義名	教職実践演習(中・高)B (教職課程)		
英文科目名	Practical Study of Teaching Profession		
担当者名	梅野 正信.久保田 福美.宮盛 邦友.山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 中央-402		

授業概要

教職実践演習は、教職課程の全課程(「教職に関する科目」および「教科に関する科目」など)を通して理解し身につけた資質能力が、教員としての必要な能力として形成されたか、について最終的に確認することを目的としている。いわば、「大学における教員養成の集大成」として位置づけられている科目である。受講学生には、この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であり、どのようにして乗り越えることができるのかを認識することで、よりよい教員生活がスタートできるようになることを期待されている。

到達目標

- ①教職を理論的・実践的に理解する。
- ②教職の専門性を理論的・実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションー「履修カルテ」を用いての教職課程履修全体に対するリフレクションの意義と方法
第2回	学校論①社会の変化と学校の役割
第3回	学校論②教職員と共同した学校運営
第4回	学校論③保護者・地域との連携
第5回	教師論①教職の意義
第6回	教師論②子どもに対する教員の義務
第7回	教師論③職務内容
第8回	確認①ー「履修カルテ」を用いた教師論・教科指導における自己の到達点と今後の課題
第9回	教科指導①授業の型
第10回	教科指導②学習指導の考え方
第11回	教科指導③教科教育の意義
第12回	生徒指導①子ども理解
第13回	生徒指導②学級担任の任務と学級集団づくり
第14回	生徒指導③社会人としても基本
第15回	確認②ー「履修カルテ」を用いた生徒指導・学校論における自己の到達点と今後の課題

授業計画コメント

本演習は梅野正信、山崎準二、久保田福美、宮盛邦友の4人が、それぞれ学校論、教師論、教科指導、生徒指導を担当する。

授業方法

各担当者が「履修カルテ」をふまえながら各回のテーマに即した解説を行ったあと、受講者による教育実習を通して体験した具体的な問題などについて「履修カルテ」に基づき話し合う・文章を書く等の活動を随時取り入れて、理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教職に向けて、自己の到達点と今後の課題が明確にできたかどうかの状況を、「履修カルテ」やレポート等により確認し、総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業において、学生からの疑問・質問に対して、教員がコメントをする。

教科書コメント

特に指定しないが、教職課程履修全体のリフレクション活動を行うために「履修カルテ」(必携)を活用する。

参考文献コメント

特になし。必要に応じて随時資料を配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本演習はA～Dの4コマが開設されているが、履修登録にあたってはあらかじめ掲示等で指定された科目を登録すること。また、本演習の単位を修得できなかった場合には、教員免許が取得できないことをしっかり認識して授業に臨むこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910700203	科目ナンバリング	U910700203
講義名	教職実践演習(中・高)C (教職課程)		
英文科目名	Practical Study of Teaching Profession		
担当者名	山崎 準二・梅野 正信・久保田 福美・宮盛 邦友		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 中央-402		

授業概要

教職実践演習は、教職課程の全課程(「教職に関する科目」および「教科に関する科目」など)を通して理解し身につけた資質能力が、教員としての必要な能力として形成されたか、について最終的に確認することを目的としている。いわば、「大学における教員養成の集大成」として位置づけられている科目である。受講学生には、この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であり、どのようにして乗り越えることができるのかを認識することで、よりよい教員生活がスタートできるようになることを期待されている。

到達目標

①教職を理論的・実践的に理解する。 ②教職の専門性を理論的・実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションー「履修カルテ」を用いたの教職課程履修全体に対するリフレクションの意義と方法
第2回	教師論①教職の意義
第3回	教師論②子どもに対する教員の義務
第4回	教師論③職務内容
第5回	教科指導①授業の型
第6回	教科指導②学習指導の考え方
第7回	教科指導③教科教育の意義
第8回	確認①ー「履修カルテ」を用いた教師論・教科指導における自己の到達点と今後の課題
第9回	生徒指導①子ども理解
第10回	生徒指導②学級担任の任務と学級集団づくり
第11回	生徒指導③社会人としての基本
第12回	学校論①社会の変化と学校の役割
第13回	学校論②教職員と共同した学校運営
第14回	学校論③保護者・地域との連携
第15回	確認②ー「履修カルテ」を用いた生徒指導・学校論における自己の到達点と今後の課題

授業計画コメント

本演習は山崎準二、宮盛邦友、梅野正信、久保田福美の4人が、それぞれ教師論、生徒指導、学校論、教科指導を担当する。

授業方法

各担当者が「履修カルテ」をふまえながら各回のテーマに即した解説を行ったあと、受講者による教育実習を通して体験した具体的な問題などについて「履修カルテ」に基づき話し合う・文章を書く等の活動を随時取り入れて、理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 教職に向けて、自己の到達点と今後の課題が明確にできたかどうかの状況を、「履修カルテ」やレポート等により確認し、総合的に判断して評価する。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業期間中に随時フィードバックしていく

教科書コメント

特に指定しないが、教職課程履修全体のリフレクション活動を行うために「履修カルテ」(必携)を活用する。

参考文献コメント

特になし。必要に応じて随時資料を配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本演習はA～Dの4コマが開設されているが、履修登録にあたってはあらかじめ掲示等で指定された科目を登録すること。また、本演習の単位を修得できなかった場合には、教員免許が取得できないことをしっかり認識して授業に臨むこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U910700204	科目ナンバリング	U910700204
講義名	教職実践演習(中・高)D (教職課程)		
英文科目名	Practical Study of Teaching Profession		
担当者名	久保田 福美・梅野 正信・宮盛 邦友・山崎 準二		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 中央-401		

授業概要

教職実践演習は、教職課程の全課程(「教職に関する科目」および「教科に関する科目」など)を通して理解し身につけた資質能力が、教員としての必要な能力として形成されたか、について最終的に確認することを目的としている。いわば、「大学における教員養成の集大成」として位置づけられている科目である。受講学生には、この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であり、どのようにして乗り越えることができるのかを認識することで、よりよい教員生活がスタートできるようになることを期待されている。

到達目標

①教職を理論的・実践的に理解する。 ②教職の専門性を理論的・実践的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーションー「履修カルテ」を用いての教職課程履修全体に対するリフレクションの意義と方法
第2回	教科指導①授業の型
第3回	教科指導②学習指導の考え方
第4回	教科指導③教科教育の意義
第5回	生徒指導①子ども理解
第6回	生徒指導②学級担任の任務と学級集団づくり
第7回	生徒指導③社会人としての基本
第8回	確認①ー「履修カルテ」を用いた教科指導・生徒指導における自己の到達点と今後の課題
第9回	学校論①社会の変化と学校の役割
第10回	学校論②教職員と共同した学校運営
第11回	学校論③保護者・地域との連携
第12回	教師論①教職の意義
第13回	教師論②子どもに対する教員の義務
第14回	教師論③職務内容
第15回	確認②ー「履修カルテ」を用いた教師論・学校論における自己の到達点と今後の課題

授業計画コメント

本演習は久保田福美、宮盛邦友、梅野正信、山崎準二の4人が、それぞれ教科指導、生徒指導、学校論、教師論を担当する。

授業方法

各担当者が「履修カルテ」をふまえながら各回のテーマに即した解説を行ったあと、受講者による教育実習を通して体験した具体的な問題などについて「履修カルテ」に基づき話し合う・文章を書く等の活動を随時取り入れて、理解を深める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指示をした学習を、必ず、準備すること。そして、疑問をもって授業にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 教職に向けて、自己の到達点と今後の課題が明確にできたかどうかの状況を、「履修カルテ」やレポート等により確認し、総合的に判断して評価する。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業の振り返りを、次の授業で紹介し、生かしていく。

教科書コメント

特に指定しないが、教職課程履修全体のリフレクション活動を行うために「履修カルテ」(必携)を活用する。

参考文献コメント

特になし。必要に応じて随時資料を配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本演習はA～Dの4コマが開設されているが、履修登録にあたってはあらかじめ掲示等で指定された科目を登録すること。また、本演習の単位を修得できなかった場合には、教員免許が取得できないことをしっかり認識して授業に臨むこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>